

東京都立大学 都市環境学部 観光科学科

東京都立大学 大学院 都市環境科学研究科 観光科学域



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

東京都立大学

ANNUAL REPORT

Department of Tourism Science, Tokyo Metropolitan University





TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

東京都立大学

ANNUAL REPORT 2020



東京都立大学 都市環境学部 観光科学科

東京都立大学大学院 都市環境科学研究科 観光科学域

1 Staff スタッフ紹介

2 Research Summary 研究概要

- 02 2-1. 自然環境マネジメント領域
- 06 2-2. 地域計画・マネジメント領域
- 13 2-3. 行動・経営科学領域

3 Research Result 研究成果

- 18 3-1. 自然環境マネジメント領域
- 21 3-2. 地域計画・マネジメント領域
- 24 3-3. 行動・経営科学領域

4 Specific academic research 特定学術研究

- 26 4-1. 自然環境マネジメント領域
- 27 4-2. 地域計画・マネジメント領域
- 28 4-3. 行動・経営科学領域

5 Student education 学生教育

- 29 5-1. 所属学生
- 5-2. 研究室への配属
- 5-3. 学位論文
 - 博士論文
 - 修士論文
 - 学位論文

6 Social contributions 社会貢献

- 32 6-1. 自然環境マネジメント領域
- 33 6-2. 地域計画・マネジメント領域
- 35 6-3. 行動・経営科学領域

7 Awards, etc. 受賞等

- 36 7-1. 自然環境マネジメント領域
- 7-2. 地域計画・マネジメント領域
- 7-3. 行動・経営科学領域

01 Staff スタッフ紹介

自然環境・マネジメント領域



Toshio KIKUCHI

菊地 俊夫
教授

学位 理学博士・筑波大学
専門 地理学(農業・農村地理学、観光地理学)
自然ソーリズム学



Shinya NUMATA

沼田 真也
教授

学位 博士(理学)・東京都立大学
専門 熱帯生物学、都市生態学、
自然保護地域管理



Takeshi OSAWA

大澤 剛士
准教授

学位 博士(理学)・神戸大学
専門 生物多様性情報学・生態系管理学・
保全科学



Etsuro TAKAGI

高木 悦郎
助教

学位 博士(農学)・東京大学
専門 森林動物学、個体群生態学、
ナチュラルヒストリー



Taiyo YAGASAKI

矢ヶ崎 太洋
特任助教

学位 博士(理学)・筑波大学
専門 人文地理学、災害地理学

地域計画・マネジメント領域



Tetsuo SHIMIZU

清水 哲夫
教授

学位 博士(工学)・東京工業大学
専門 交通学、観光政策学、観光計画学



Susumu KAWAHARA

川原 晋
教授

学位 博士(工学)・早稲田大学
専門 観光まちづくり、観光地域マネジメント、
都市・地域デザイン



Yu OKAMURA

岡村 祐
准教授

学位 博士(工学)・東京大学
専門 都市デザイン、都市計画、観光まちづくり、
観光地域史



Mitsuru NODA

野田 満
助教

学位 博士(工学)・早稲田大学
専門 農村計画、都市・地域デザイン、
観光まちづくり



Yuki OHIRA

大平 悠季
助教

学位 博士(工学)・神戸大学
専門 土木計画、交通計画、
都市・地域計画



Norie HIRATA

平田 徳恵
特任助教

学位 博士(観光科学)・首都大学東京
専門 地域ブランディング、観光地域づくり、
空間デザイン、環境色彩



Khanal Bishnu Prasad

Khanal Bishnu Prasad
特任助教

学位 博士(観光科学)・首都大学東京
専門 ヘルスツーリズム、観光マネジメント、
観光マーケティング

行動・経営科学領域



Yohei KURATA

倉田 洋平
准教授

学位 米国メイン州立大学
専門 観光情報学、空間情報科学



Taketo NAOI

直井 岳人
准教授

学位 Doctor of Philosophy, University of
Surrey
博士(工学)・東京工業大学
専門 観光研究



Katsuya HIHARA

日原 勝也
准教授

学位 博士(経営学)・筑波大学
専門 ミクロ経済学、経営学、観光政策、
交通政策



Wu Lingling

Wu Lingling
准教授

学位 博士・広島大学
専門 観光マーケティング



Yu OGASAWARA

小笠原 悠
助教

学位 博士(工学)・弘前大学
専門 社会システム工学



Makiko ASO

阿曾 真紀子
特任助教

学位 修士(観光学)・琉球大学
経営学修士(専門職・MBA)・京都大学
専門 サービスマーケティング・観光教育・
地域経営

大都市における農空間の保全と適正利用に関する研究

菊地 俊夫 Toshio KIKUCHI

東京を農共生都市と位置づけ、東京の「農」に関わる広義のステークホルダーの現状とそれぞれの関係性について把握した上で、それぞれの有機的な繋がりとそれらの将来的な持続性を図るための調査・研究を実施した。さらに、「農」の「業」として持続性を図るための農業後継者や新規就農者などの人材育成を行うとともに、新たなタイプの市民農園やコミュニティガーデンなどのさまざまな社会実験を行い、それらの実施による「農」空間の保全と活用の可能性を自治体や地域の性格、あるいは地域の諸条件に基づいて可能性を検討した。具体的には、東京大都市圏における「農」と「業」、「土地」、「教育」、「福祉」、「安全」との組み合わせタイプの最適立地や最適分布を地域ごとに明らかにし、「農」空間の適正配置の可能性を検討した。その結果、農業体験農園や市民農園が「農」と「業」、「土地」、「教育余暇」、「福利厚生」、「安全安心」のノードとなることが明らかになった。



三浦半島におけるイチゴの観光農園

フードツーリズムのフレームワークを用いた農村再生システムの地理学的研究

菊地 俊夫 Toshio KIKUCHI

カナダ・バンクーバー島のカウティンバレーやオーストラリア・パース近郊のスワンバレーのワインツーリズム、あるいはフランス

北部のビールツーリズムの調査データを整理・分析して、フードツーリズムのフレームワークを用いた農村再生システムを検討し

た。事例地域におけるワインツーリズムの共通した特徴は、ワイナリーと地元農産物の生産農場とが結びつくようになったことである。このことは、スローフードを核とする農村空間の商品化にも寄与することになった。また、小規模ワイナリーから大規模ワイナリーまでの結びつきや地元農産物の生産農場との結びつきは、ウィークエンドに開催されるファーマーズマーケットの出店を促し、それを契機にしてフードツーリズムのさらなる発展が確かなものになった。他方、ビールツーリズムもローカルなブリュワリーを核とするフードツーリズムの1つの要素として取り込み、周辺の地位資源を巻き込んで観光空間を構築している。全体的にみると、フードツーリズムによって地域資源の結びつきが農村空間の商品化や農村再生に体系的に機能し、農村再生が達成されている。



フランスのダンケルク雄編におけるビールツーリズムの調査

ルーラルジェントリフィケーションにともなうルーラリティの保全と活用に関する日英の比較研究

菊地 俊夫 Toshio KIKUCHI Martin Phillips (Visiting Professor and Professor of Geography, University of Leicester, UK)

本研究は、グローバル化が進展する社会において都市のジェントリフィケーションと農村のルーラルジェントリフィケーションとのネクサス（連環）を目指し、それにとまってルーラリティの保全と活用の在り方を日本とイギリスで比較した。ルーラルジェントリフィケーションの発展により日本とイギリスの農村で共通した特徴は農村の変化である。しかし、日本とイギリスにおける農村の変化には大きな違いがあった。日本の農村においては、農村の生活や農村景観が変化し、ルーラリティがアーバニティとの競合のなかで失われている。他方、イギリスでは農村生活の変化は生じているが、農村景観は維持され、ルーラリティを生かした居住環境づくりが行われている。このような地域的な差異が生じた要因は、日本とイギリスにおけるルーラリティの価値観や意味づけの違いがあり、それは都市と農村

のネクサスや関係性、あるいは都市農村の分離性や連続性に基づくものであることを明らかにした。



イングランのミッドランズにおけるルーラルジェントリフィケーションの調査

日本農業の維持・存続戦略に関する地理学的研究

菊地 俊夫 Toshio KIKUCHI

現在の日本では農業の担い手不足や脱農化傾向が著しくなり、さらには輸入農産物との競合が強まるなど、農業の発展どころか存続さえ危ぶまれるといった危機的状況になっている。本研究は日本農業をいかに存続・発展させるかの戦略とそのための基盤（地域的条件）を、存続・発展の可能性の高いと考えら

れる農業経営事例が展開する地域について、実証的に明らかにする。その際に、1990年代以降重視されるようになってきた農業・農村の環境維持機能や居住機能、文化・教育機能、あるいは観光・レクリエーションといった食料生産機能を活用しながら、かつ食料・繊維生産といった本来の機能を存続・発展戦略

をみいだし、それを実現する地域的条件を抽出しようとする。また、これまでのような画一的なトップダウンの政策や横並びの方策ではなく、それぞれの地域の実情や諸条件に適応した戦略や農業経営形態を明らかにすることが新たな視点となる。

都市域の生物多様性管理に関する研究

沼田 真也 Shinya NUMATA

高木 悦郎 Etsuro TAKAGI

都市住民と多様な生物の共存に必要な条件を明らかにするため、都市の生物がもたらす負の生態系サービス（ディスサービス）に注目し、都市住民の生物や自然的景観に対する嗜好性やディスサービスに対する受容性、そしてそれらを緩和することが可能な要因（幼少期自然体験等）について検討を進めている。本年度は、幼少期の自然体験や自然に

対する負の感情（嫌悪、恐怖）が成人の野外アクティビティへの選好に与える影響について分析した研究論文をとりまとめ、学術誌において発表した（Sugiyama et al. Landscape and Urban Planning）。

熱帯雨林の野生生物観光

沼田 真也 Shinya NUMATA 高木 悦郎 Etsuro TAKAGI

熱帯雨林を訪れる観光客の多くは野生生物観察に対する関心や期待は大きいものの、通常、熱帯雨林では野生生物は密度が低く、夜行性のものが多いため、観察するのは簡単ではない。そのため、野生生物と観光客との接点は小さく、野生生物観光としての満足度はあまり高くない。そこで、東南アジア熱帯雨林において、野生生物の生態学的研究手法を活

用した観光アトラクションプログラム（バーチャルハンティングプログラム：VH）の開発を進めている。2020年度はエンダウロンピン国立公園において実施してきた野生生物映像データを分析し、人為攪乱が野生生物の日周活動に与える影響を議論した。その結果、多くの哺乳類種において人為活動の大小は影響を与えていなかったものの、いくつかの食肉

目哺乳類やマメジカは人為活動の異なる地域感で日周活動が異なることが明らかになった（小林祥・修士学位論文）。また、エンダウロンピン国立公園およびタマンネガラ（国立公園）の公演管理者とVHの事業化や、新型コロナウイルス感染症拡大が収束した後の行動計画について議論を行った。

新型コロナウイルス感染症感染拡大が小学生の外遊びに与える影響

沼田 真也 Shinya NUMATA

外遊びは、心身の健康の維持に効果的なだけでなく、人と自然との関わりにおいても重要な役割を担う。近年、子供の外遊び体験の喪失により将来的な人と自然の関係に悪影響を及ぼす可能性が懸念されているが、2019年12月に発生した新型コロナウイルス感染症のパンデミックは人々の行動に大きな影響を与

え、子供の外遊びも大きく抑制された可能性が示唆されている。本研究では、新型コロナウイルス感染症のパンデミックによる子供の外遊びの変化と、外遊びに影響を与える要因を明かにするため、神奈川県川崎市の小学校5、6年生を対象にアンケート調査を行った。その結果、外遊びの頻度、グループサイズ、場

所、種類のすべてにおいてパンデミック前から変化し、頻度の減少、グループサイズの縮小、一部の遊び場所、種類で遊ぶ児童の減少等がみられた。一方で、自然遊びや自然空間での遊びは変化しなかった。（陸川早紀・卒業論文）

自然史資料に基づく生物多様性情報学

大澤 剛士 Takeshi OSAWA

標本や観察情報、市民参加型調査等、必ずしも厳密な調査デザインに基づいて取得されたわけではない各種自然史資料の収集、整

理、さらには有効な利用方法についての検討を行っている。本年度は標本データを過去の分布データとして整理し、論文化するとともに

国際ネットワーク上でオープンデータとして公開した（Osawa et al., 2020; Yoshimatsu et al. 2020）。

自然の恵み「生態系サービス」の視覚化、定量に向けた研究

大澤 剛士 Takeshi OSAWA

自然環境、半自然環境から得られる人間への利益を「生態系サービス」という。生態系サービスには既に人間が認識し、積極的に利用しているものから、いまだ人間が気づいていない潜在的なものまで多種多様なものがあると考えられている。これら生態系サービスにつ

いて、潜在的な価値の捕捉、認識されながらも定量評価がなされていないサービスの定量化に向けた検討を行っている。本年は、人が持つ興味関心に注目し、生物の分布と写真撮影スポットの関係を検討した研究（Osawa et al. 2020 Nat. Cons）、水田が持つ防災効

果を定量評価した研究（Osawa et al. 2020 Ecol.Ind.）、自然状態と連続した生態系は高いハビタットとしての質を持つことを示した研究（Osawa et al. 2020 Sci.Rep.）を公表した。

外来生物の管理に関する研究

大澤 剛士 Takeshi OSAWA

国際貿易の発展等に伴い、現在、日本には意図的、非意図的に人間によって国外から持ち込まれた生物が多数生息している。これらは良好な自然環境を脅かす、農業被害をもたら

す等の問題があることが知られている。これらの適正な管理、被害防止に貢献することを目的とした研究に取り組んでいる。本年は、国立公園である箱根における10年以上の外来植

物駆除活動の成果をとりまとめ、科学的知見に基づいて継続的な駆除を行うことで著しく個体数を減らすことができたことを示した（大澤ほか2020保全生態学研究）。

昆虫の個体群動態と観光の関係

高木 悦郎 Etsuro TAKAGI

昆虫は、膨大な種数、個体数、および生物量を誇り、地球上のあらゆる地域に生息し、生態系において様々な重要な役割を担っている。また、世界中で一般的に認知度や好感度の低い生物であり、日本を除いて観光対象となることはほとんどない。昆虫が持つ特徴の一つに、高い生態系エンジニアリング能がある。様々な

昆虫が、劇的に生態系を変化させる。最近、この昆虫の生態系エンジニアリング能による生態系改変が、人間に与える文化的影響が注目されつつある。しかし、観光に及ぼす影響に関する知見はほぼない。そこで本研究課題では、特に、昆虫の生態系エンジニアリング能に注目して、1) 昆虫が大発生する要因、および

2) 昆虫の大発生が起こった際に観光に及ぼす影響を明らかにすることを目的として、野外調査、野外実験、および室内実験を行っている。今年度は、ロシアを中心に森林に大きな被害を及ぼしているキクイムシ類の1種の生態。的新知見を明らかにした。

東日本大震災による津波災害後の人口減少と地域社会の再編に関する研究

矢ヶ崎 太洋 Taiyo YAGASAKI

東日本大震災は三陸沿岸地域に大きな津波災害をもたらした。三陸沿岸地域では、住宅の移転を前提とした防災集団移転、災害公営住宅、自主再建などが実施されることで、津波リスクを軽減した地域へと転換しつつある。その一方で、三陸沿岸地域では災害後の住民の転出によって人口減少の傾向にあり、地域社

会は大きな再編を迫られつつある。本研究は、東日本大震災後の三陸沿岸地域の人口移動やローカルな地域における復興のメカニズムを明らかにした。東日本大震災前から農山漁村は人口流出の傾向にあり、東日本大震災はその潮流を加速させた。特に、東日本大震災後は気仙沼市の内陸には新しい人口集

中がみられ、人口分布は大きく変化していた。津波によって大きな被害を受けた地域社会は人口流出を経験するものの、自治会間の連携の強化や、転出者を自治会の賛助会に組み込むことで、人口流出による負の影響を緩和した。

日本におけるゴーストツーリズムと心霊スポットに関する研究

矢ヶ崎 太洋 Taiyo YAGASAKI

夜は人間の開放感と恐怖の入り混じる時間帯である。夜や暗闇への恐怖は幽霊や妖怪を生み出し、現代でも都市伝説やオカルトという形で存続する。これらの都市伝説やオカルトは恐怖だけでなく好奇心の対象として消費されており、ゴーストツアーという形態で顕在化する。本研究は、心霊スポットおよび心霊ツ

アーを対象に、夜の場所に対する人間の恐怖と、その恐怖に対する好奇心を動機としたツーリズムを分析することで、人間が感じる恐怖と場所との関係性について考察した。心霊スポットは、場所の特性を反映して、恐怖の対象が異なり、その差異は怪談に現れる。日本におけるゴーストツーリズムは、実施企業に

とって宣伝・広告の意味を持ち、倫理的な配慮がなされる。心霊スポットの分布と心霊ツアーのコースは一致せず、ツアーでは主に郊外の心霊スポットを消費している。

観光の現象や経済効果を理解するためのデータ整備・分析手法開発

清水 哲夫 Tetsuo SHIMIZU 大平 悠季 Yuki OHIRA

第一に、インドネシアの西パプア県を対象に、複数の公的統計を組み合わせて独自に地域社会会計行列を作成し、観光振興による経済波及効果の帰着状況を居住地や世帯収入階層別に分析した。第二に、訪日外国人の出入国空港

と周遊都道府県間の移動や滞在状況の統計である FF-Data の 2014 年～2018 年の 5 年間のデータを用いて、当該期間における主要国籍の周遊パターンの変遷と、それと地方空港への国際線就航状況との対応関係を詳細に分析

した。第三に、都市におけるメッシュ別滞在人口の時系列データを用いて、交通ネットワークや POI を考慮したメッシュ間の連関性をグラフ構造として表現した機械学習技術による短期的将来滞在人口推計の方法論を開発した。

持続可能な観光開発のための政策・計画・技術論

清水 哲夫 Tetsuo SHIMIZU 大平 悠季 Yuki OHIRA 平田 徳恵 Norie HIRATA Nguyen Van Truong

第一に、大都市圏郊外の散策路ネットワークの観光利用を通じた地域活性化に向けて、公共交通によるアクセスの促進につながるサービス水準管理と周辺地域資源活用の複合戦略を提言するための基礎研究を実施した。第二に、

混雑観光地である鎌倉を対象に、観光客の時間分散を効果的に実現するための戦略策定に向けて、観光客の周遊行動を変容するための要因とその効果を確認するための基礎調査を実施した。第三に、地域観光地の DMO や事業

者のデジタルマーケティングのスキルを上げるための教育プログラムのあり方について研究を行い、試行的実施を通じてその効果を検証した。

地域観光プランニング：観光まちづくりの計画技術の体系化研究

川原 晋 Susumu KAWAHARA 岡村 祐 Yu OKAMURA

観光まちづくりの計画技術の体系化をめざして、日本建築学会の小委員会として活動している研究である。行政の観光計画の対象がソフト中心となっている状況に対して、より質の高い観光「エリア」を作っていくための景観や公共空間の魅力化といったハードと、観光コンテンツの開発などのソフトが連動した計画論をめざしている。それぞれに関わる先進事例の調査をもとに、従来の観光計画や都市計画・まちづくりとの関係のなかでポジショニングをしつつ、手法の要点を整理している。具体的には、地区スケールで環境・空間改善や、地理的・空間的・人的環境の中で観光資源をとらえることを重視し、実効性ある公民連携の取り組みとするための、フロートビジョンと実行チームのつくり方、社会実験を通しての事業化といったプロセスデザイン、持続的な観光地経営のためのエリアマネジメント組織や観光財源確保の方法等である。今年度は、コロナ禍の中で顕在化しているマイクロツーリズムやオンラインツアー等の仮想体験観光といった新しい観光の形を旅の時間軸や空間移動面から俯瞰的に整理したうえで、これまで考えてきた方法論の

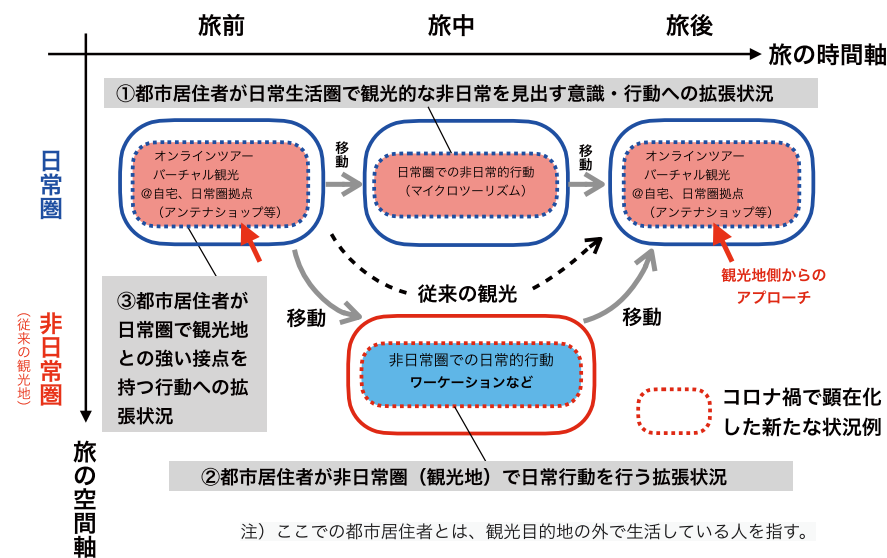


図 日常圏余暇と観光とのボーダレス化にみる観光概念の拡張 「日本建築学会持続可能な観光地形成小委員会 検討資料」

視点から評価した。また、コロナ禍を乗り越えるための新しい動きを始めているキーパーソンのインタビューを積み上げた。また自治体の観光行政の今後のあり方について、短期的効果を狙ったプロモーションを中心とするフロー

の仕組みだけでなく、地域に「レガシー」を残すストック型の取り組みを目指すべきことを、全国自治体へのアンケート調査や事例をもとに提言した。

里山基盤ものづくりの川上から川下までの事業者連携による観光まちづくり

川原 晋 Susumu KAWAHARA 平田 徳恵 Norie HIRATA

林業や和紙といった里山基盤のものづくり産業や文化、職人を有する埼玉県ときがわ町において、自然と共生する暮らしの価値観に共感する人を対象に、ものづくりの川上(材料づくり)から川下(商品づくり)までの物語に触れつつ、DIY体験を楽しんでもらう観光コンテンツの造成を行うプロジェクトである。このプロジェクトを通して、これまで接点の薄かった職人さんや観光やまちづくりの専門家、行政との事業連携を行い、多面的な地域振興につないでいくことを目指している。

2020年度は、観光庁の『誘客多角化等のための魅力的な滞在コンテンツ造成』における実施事業を活用して、この土地を訪れた方に、地元の職人さんたちと一緒に地域をめぐりつつ、木材や和紙等を用いて自分でつくった名産品を持

ち帰る3種類のワークショップを合計14回試行した。林業家、製材店、家具職人、組子職人、和紙職人、工務店、マッチングコーディネーター、デザイナー、地域プロデューサー、地域商社、行政、大学等の連携が実現している。川原研は、ワークショップの企画や磨き上げの支援、解説ツールやホームページの制作、コロナ禍の中で一般客を公募するのが難しい状況の中でのモニター、支払い意思額調査などを行った。職人側、参加者側双方の満足度は高く、日帰りツアーとしては比較的高額の支払い意思額を提示した参加者も多く、連携強化の意欲向上につながった。

「ときがわネットワーク：里山ものづくりの

川上から川下までを味わう観光!」

HP <https://tokinet.mystrikingly.com>



図 森の図鑑ワークショップの流れ

フエ皇帝陵周辺集落との協働による歴史的環境のマネジメント手法としてのエコスタディツアー開発

川原 晋 Susumu KAWAHARA



図 環境理解用に作成したドローン撮影360度画像ウェブコンテンツ
fig. 360° image web content photographed by a drone for environmental understanding
Created by Nguyen Quang Huy (Hue University of Science)

ベトナム最後の王朝、阮朝の歴代皇帝陵は、ユネスコ世界遺産「フエの建造物群」の構成遺産として認定されている。筆者らの研究チームは、建造物のみならず、周辺の自然環境や集落、水田を含めたランドスケープが、中国の風水思想を土台にベトナムの気候風土に合わせて独自に工夫されて計画されていたことを明らかにしてきた。しかし、ベトナム戦争による被害や、近年の農業や林業形態の変化や、地域外資本による

観光目的の空間改変によって、その景観や水利システムが壊されつつある。そこで、筆者らの日本調査チームでは、集落住民や政府関係者と皇帝陵の計画思想を共有し、皇帝陵の歴史的環境の保全と適切な観光活用のために、2017年よりエコスタディツアーを試行してきた。2020年度より現地ツアー会社を設立し実践段階である。

コロナ禍においても動きを止めないために、現地ツアーと、これをLive中継するオンラインツアーとを同時におこなう「ハイブリッドツアー」に挑戦した。ドローンによる空中からのLive映像の併用や、オンライン参加者向けのzoom画面共有を活用した多様な資料の提示と解説など、ハイブリッドツアーならではの価値をつくる方法を試行した。その結果、地域の環境価値を理解するエコツーリズムに基づくエコツアーとの親和性や有用性について、多くの前向きな意見を確認できた。

今後は、現ツアーの前後に体験するオンラインツアーの意義を意識しながらハイブリッドツアーを磨き上げるとともに、その有用性を確認していく。



図 ハイブリッドツアーの方法(オンライン参加者が見ている画面)
fig. Screens viewed by online participants in the hybrid tour.

プロジェクションマッピング模型システムを用いた新たな地域解説展示・教育の方法の開発

川原 晋 Susumu KAWAHARA 岡村 祐 Yu OKAMURA 野田 満 Mitsuru NODA

近年、模型に多様な主題地図をプロジェクターで投影するプロジェクションマッピング模型システム(PMMシステム)が博物館等で導入されている。投影する画像はPCで自由に作成できるので多様な活用の仕方ができるはずであるが、各地での利用の現状は、投影コンテンツの更新はあまり行われず、一方的な解説展示ツールの域を出ていない。

そこで、リアルタイムに模型に書き込み投影をしたり、多くの人がコンテンツを作成し、持ち込み投影できるような利用方法が可能になるようにPMMシステムをメーカーと共同開発し、民間ガイド等も活用できる解説展示ツールとして新たな利用や教育ツールとしての活用方法を研究している。

2020年度は、観光科学科の観光計画・デザ

イン演習において、学生が作成した主題図を投影し議論を行う方法を試行した。これが着目され、この開発したPMMシステムが、八王子市が2021年4月に開設した桑都日本遺産センターに導入された。今後八王子市との共同研究により、教育・研究成果を生かした投影コンテンツの共有や、出張講座等による日本遺産ブランディングの



図 主題の構成
地形を意識した主題図作成の課題

ツールとしての活用を行う予定である。なお、本研究は、2020年度 傾斜的研究費 社会連携支援(社会連携活動支援)の助成をうけ「産官学共創型の観光地形成と経営のモデル化」研究の一環として、今後の共創型観光施策のプラットフォームとなるシステムとして進めた。



図 プロジェクションマッピング模型システムの演習授業 活用風景

大田クリエイティブタウンの構想と実践

岡村 祐 Yu OKAMURA



図 おおたオープンファクトリー2020のウェブサイト
<https://www.o-2.jp/mono/oof2020/>

大田区は世界に負けない技術を誇るモノづくりと豊かで楽しい暮らしが重なり合うまちである。地域自ら持続的に価値を育む「クリエイティブタウン」という将来像実現に向けて、大学(東京都立大学、横浜国立大学)、観光協会、地元工業者等が中心となり2017年4月に(一社)おおたクリエイティブタウンセンターを設立した。これをプラットフォームとして各種プロジェクトを展開している。2020年度は、例年実

施している期間限定で工場を一斉公開する「おおたオープンファクトリー」は、オンラインで実施するなど、コロナ禍の影響を大きく受けた。一方、観光庁「誘客多角化等のための魅力的な滞在コンテンツ造成実証事業」に採択され、上記オンラインコンテンツの制作や、展示・販売のための移動式屋台の企画・製造、工場やサイト来訪者のニーズ調査などを実施した。

都市近郊における散策路事業の成立構造・計画思潮の変遷と縮退時代における活用可能性

岡村 祐 Yu OKAMURA

本研究は、「散策路事業(=散策路の整備・設定や、まち歩きイベントの開催)」が、健康、レクリエーション、モビリティ等、散策する市民のライフスタイルの変化から生み出されるブッシュ要因と、郊外・行楽地開発、自然・文化資源の保全活用、コミュニティ形成等、来訪者を受け入れる地域側が期待する環境形成につながるブル要因から成り立つという仮説のもと、第一に、「散策路事業」の通史研究(時代区分と各時代の特徴解明)、第二に、特定地域

における散策路事業の事例研究、第三に、「暮らし体験型散策路」の計画提案・実践・評価を研究課題として掲げている。2020年度は、東京都が過去に実施してきた散策路事業や、埼玉県飯能市における住宅団地建設に伴う新規整備散策路と既存散策路を一体的に捉えた都市ビジョンに関する資料収集を行った。本研究は、科学研究費基盤研究(C)の助成を受けて実施した。



図 飯能市のハイキングマップ

日本・中国における陶磁器生産地における「新たな観光化」による地域変容

岡村 祐 Yu OKAMURA

本研究では、中国および日本の民窯産地（陝西省堯頭村、栃木県益子町）を対象に、窯業（①製品、②生産環境、③流通・販売）の現代化および観光化が、地域の景観やコミュニティに対して、どのような影響を与えるのか、生産者や学芸員などへのヒアリング調査および資料収集

を行い、分析・考察を行った。益子町では、「文化仲介者」をキーワードに、文化的価値を消費者・観光客に伝える方法としての観光のあり方を研究した。これらの成果は、学会論文および学位論文（博士および修士）として公表する

ことができた。なお、コロナ禍により当初予定していた中国への渡航調査や現地大学との学術交流は見合わせた。なお、本研究は、東京都立大学都市環境学部傾斜的研究費（若手）を活用して実施した。

「関係人口」の再定義を踏まえた過疎地域の計画論構築

野田 満 Mitsuru NODA

本研究は、これまで政策的に重要視されながらも明確に定義付けられてこなかった「関係人口」概念の再定義及び計画論への展開を試みるものである。具体的には、地域づくりへの参与視察を通したヒアリング調査、及びその分析による1) 客観的指標に基づく関係人口の構造把握、2) 移住を前提としない関係人口のモデル化と検証を行う。その上で、3) 関係人口の再定義及びそれを踏まえた過疎地域の計画論を構築する。

2020年度は後述する地域づくりの取り組み支援や対外発表を進めると共に、様々なかたちで議論されている関係人口の概念整理を行った。次年度はこの成果に基づき、主として共時的な視点で論じられることの多かった関係人口の枠組みを、通時的なアプローチを加えて分析し、新たな関係人口のモデルを構築することを想定している。

なお本研究は文科省科研費（若手研究）「「関係人口」の再定義を踏まえた過疎地域の計

画論構築 -地域づくりの実践を通して」を受けて進められたものである。

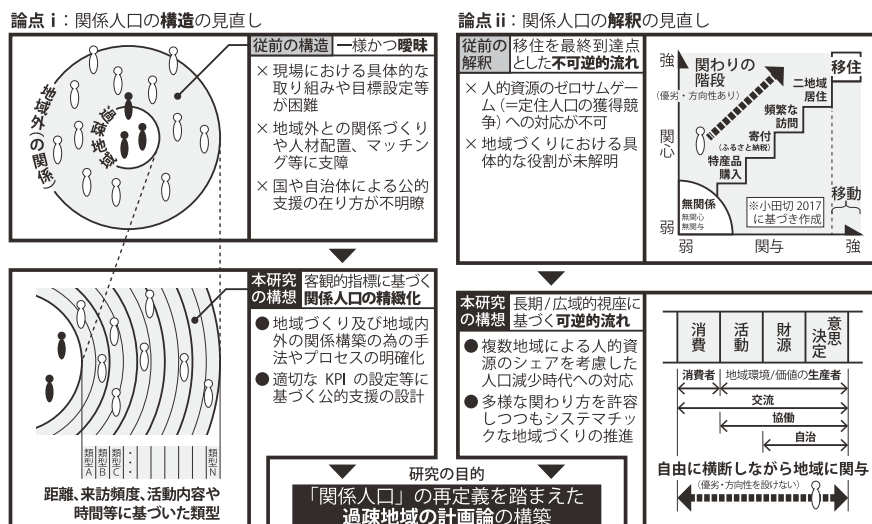


図 「関係人口」の再定義を踏まえた過疎地域の計画論構築

「淡路島ロングトレイル構想」の全体統括を通した「観光むらづくり」の理論構築

野田 満 Mitsuru NODA



トレイルコースの現地調査の様子（兵庫県洲本市竹原地区）

本研究は、淡路島・洲本市竹原集落への継続的関与を通した企画調査及び実証実験によっ

て、「定住人口の為の雇用創出」と「交流人口・関係人口の関与を前提とした集落の空間や慣習の維持管理」を併せ持った計画論としての「観光むらづくり」の理論的枠組みを提示することを目的としている。2020年度は、COVID-19の影響で対外的活動や現地調査の多くが延期 / 中止となったが、島内協力者を伴いながらの山林道補修や不法投棄看板の設置、空き家改修による拠点整備に向けた基礎調査等を部分的に進めた。次年度は対外的な集客イベントや実証実験を積

極的に実施し、引き続き「観光むらづくり」の理論構築に向けた知見を得ることを目的としたい。なお本研究は文科省科研費（若手研究）「「関係人口」の再定義を踏まえた過疎地域の計画論構築 -地域づくりの実践を通して」の関連研究として進められたものである。また一部のプロジェクト推進にあたってはトヨタ自動車株式会社トヨタ環境活動助成プログラム国内小規模プロジェクト：「環境教育 ×アウトドア」のコミュニケーションツールの制作を通した「参加型環境保全観光」を受けて行われている。

中山間地域における実践支援を通じた「観光むらづくり」のための地域ストックの利活用に関する研究

野田 満 Mitsuru NODA

本研究は、担い手の著しい減少及び地域内ストック（本研究では主として農地や家屋等の不動産を対象とする）の利活用の滞り中山間地域を対象に、「観光むらづくり」の為に地域内ストックの利活用や、それに対する認識改善の為に知見を蓄積しようとするものである。2020年度は、COVID-19によって現地調査に大幅な制限が掛かる中で、主にリモートワークによる現場支援を通して地域内ストックの実態把握及び所有者の以降調査を部分的に進めた。次年度以降は、自治体補助金事業による

家屋の耐震診断の取り組みを通して、地域拠点や Uターン者の住居のみならず幅広い観光活用に向けた取り組みを進めていく予定である。なお本研究はま及び文科省科研費（若手研究）「「関係人口」の再定義を踏まえた過疎地域の計画論構築 -地域づくりの実践を通して」の関連研究として進められたものである。また一部のプロジェクト推進にあたっては一般財団法人高知放送エヌ・ピー・オー・高齢者支援基金「田舎文化の継承と高齢者の生きがいづくりに向けた「集落

史」の編集と活用」を受けて行われている。



図 耐震診断を必要とする民家（高知県の町神谷北地区）

COVID-19 対策下における漁村地域の生活行動変容の実態把握と領域感覚に関する考察

野田 満 Mitsuru NODA

COVID-19の世界的流行に伴い、わが国で発令された緊急事態宣言の主旨は、外出自粛及び店舗休業の要請等の措置であり、これにより日常の生活行動の内容や圏域に大きな制約が生じることとなった。一方で商業インフラや地理的環境等が大きく異なる農山漁村地域では、都市地域とは違うかたちの生活行動の変化の容態がみられると考えられる。本研究はこうした背景を受け、漁村地域を対象に、緊急事態宣言前後の生活行動の変化の把握、及びその比較分析を通じた住民の社会関係及び領域感覚に関する考察を試みるものである。具体的には、1) 住民の生活行動や交流等の行為やマスク着用についての地区内外の違い、2) 利用や営業を停止した施設の把握とその傾向、3) 2) における停止のプロセス

や意思決定の実態、を明らかにした上で、漁村地域における人間の領域感覚、安全安心の感覚について分析、考察を行った。次年度以降も COVID-19の状況を注意深く把握しながら、農山漁村地域における意思決定や自治の様相について引き続き調査分析を進めていく予定である。

決定日 (連絡日)	事項	場所	管轄/判断
2月13日	和歌山県道沿道及びひより目の感染発生者報告	—	—
2月15日	森林公園花壇花壇撤去 (2月15日) の開催	加太森林公園	加太観光協会
2月20日	加太桜祭り、中止決定	おさかな創庫前	加太観光協会
2月26日	淡嶋神社参道行事 (3月3日) の規模縮小開催決定	淡嶋神社	淡嶋神社
3月2日	交流センターでの会議等の利用禁止 (3月1日~3月31日)	交流センター	連合自治会
3月8日	えび祭り (遷御祭) (3月18日) の中止決定	加太春日神社	加太春日神社
3月8日	修験道大滝祭 (4月3日) の開催決定	北の浜海水浴場	京都聖蹟院
3月20日	交流センターの会議等の利用再開、注意喚起	交流センター	連合自治会
4月17日	友ヶ島の期間入島禁止 (4月18日~5月6日)	友ヶ島	和歌山市
4月18日	青少年国際交流センターの期間休館決定 (5月11日まで)	青少年交流センター	和歌山市
4月22日	「府県を越えた移動自粛要請」看板設置	北の浜海水浴場	和歌山県
4月23日	加太地区の建設会社が地区に2500枚のマスク寄付	—	—
4月24日	淡嶋神社、神社前駐車場の閉鎖 (4月29日~5月6日まで)	淡嶋神社	淡嶋神社
4月24日	淡嶋神社前商店、期間閉店 (4月29日~5月6日まで)	淡嶋神社前	各商店
4月27日	北ノ浜公園駐車場の閉鎖決定 (4月29日~5月6日まで)	北の浜公園駐車場	和歌山県 (下津港)
4月27日	深山公衆トイレの期間利用禁止決定 (5月6日まで)	深山公衆トイレ	和歌山市
4月28日	新出浜駐車場の期間閉鎖決定 (4月29日~5月6日まで)	新出浜駐車場	淡路、下津港
4月28日	加太大波止の期間閉鎖決定 (4月29日~5月6日まで)	加太大波止	淡路、下津港
4月29日	他所県ナンバーの路上駐車多数目撃 (住民より)	—	—
5月6日	淡嶋神社の再開決定 (5月7日~)	淡嶋神社	淡嶋神社
5月6日	北ノ浜公園駐車場の閉鎖期間延長 (5月15日まで延長)	北の浜公園駐車場	和歌山県 (下津港)
5月6日	新出浜駐車場の閉鎖期間延長決定 (5月15日まで延長)	新出浜駐車場	淡路、下津港
5月8日	加太前通り (5月22日) の中止	おさかな創庫前	地元
5月12日	青少年国際交流センターの閉鎖期間未定延長決定	青少年交流センター	和歌山市
5月15日	北ノ浜公園駐車場の閉鎖期間延長決定 (5月31日まで)	北の浜公園駐車場	和歌山県 (下津港)
5月15日	友ヶ島の入島再開決定 (5月16日から)	友ヶ島	和歌山市
5月16日	新出浜駐車場の閉鎖期間延長決定 (5月31日まで延長)	新出浜駐車場	淡路、下津港
5月16日	友ヶ島の入島再開に伴う連絡 (キャンパ800禁止等)	友ヶ島	和歌山市
5月22日	青少年国際交流センターの再開決定 (5月26日から)	青少年交流センター	和歌山市
5月24日	新出浜駐車場の再開	新出浜駐車場	淡路、下津港
5月29日	北ノ浜公園運営平常管理要請 (6月1日から)	北の浜海水浴場	和歌山県 (下津港)
6月19日	葛城修験の日本遺産認定式典開催	行者堂	和歌山市

図 緊急事態宣言前後の地区の対応
(和歌山県和歌山市加太地区)

街路空間構造と施設立地に着目した中心市街地の構造分析

大平 悠季 Yuki OHIRA

我が国の多くの地方都市では、郊外化の進に伴って中心市街地が空洞化している。持続可能な都市経営のための方策として、自治体が活性化のための様々な対策を実施しているものの、個別の成功例や限定的な効果に止まる事例が散見され、まち全体の賑わい創出につながる方法論が求められる。本研究は、地方都市の中心市街地の魅力の

形成要因を解明し、効果的な活性化施策に向けた示唆を導出することを目的として、現地調査による中心市街地の詳細な土地利用状況および賑わいのデータ収集と多変量解析やネットワーク分析を援用した実証分析を行った。歩行者数を被説明変数に用いた回帰分析により、商業機能の連なりの形成や文化施設の利用者動線を意識した面的整備

等の施策が中心市街地の賑わい創出に対して有用である可能性が示唆される結果を得た。

訪日外国人の観光周遊行動の実態分析とガイド支援システムの提案

大平 悠季 Yuki OHIRA

COVID-19以前の訪日外国人観光客の急激な増加を背景に、その受け入れ環境整備の一環として通訳案内士法が改正され、ボランティアをはじめとした資格を持たないガイドの活躍の場が広がった。一方で、多様化する観光ニーズに柔軟に対応できるガイドの質の確保が課題となっている。本研究は、東京都とそ

の周辺を訪れた訪日外国人観光客の詳細なガイド実績データを用いて、観光ボランティアによるガイドの円滑化の一助となるようなガイド計画作成に対する支援システムを提案した。まず、多変量解析により徒歩圏訪問エリアや旅行選好を特定するとともに、その結果と旅行時間帯の集計に基づく旅行者の

分類を行った。その上で、協調フィルタリングを適用することにより旅行者が好むであろう観光エリアやスポットを予測し推薦するシステムを構築した。精度評価実験の結果、提案システムに一定の有効性があることが確認された。

持続可能な観光地づくりのための観光政策立案実践人材の育成

平田 徳恵 Norie HIRATA

持続的な観光まちづくりのためには、観光の経営と地域づくり・地域資源マネジメントを両輪で連携しながらの実践が必要である。自治体や地域の事業者などの多主体で、各地の地域創生を実現していく官民協働での観光地域づくりを進めるためには、地域に適切な政策立案やこれらとの整合性のある施策および事

業立案のできる知識を持つ観光政策立案実践人材が必要となるとの仮説のもと、まずは、地域づくり・地域資源マネジメントに関わる地域のキーパーソンについて一部抽出を行った。次に、これら地域おける地域づくり・地域資源マネジメント実践人材に対するインタビュー調査により、キーパーソンのキャリ

アパスを把握した。このうち夷隅地域を事例として抽出し、地域教育を実践的に展開しつつ、最終的に観光政策立案実践人材のための教育プログラムの提案に向け研究を進めている。なお本研究は、科研費若手研究を受け実施した。

高度観光経営人材育成プログラム研究

平田 徳恵 Norie HIRATA 清水 哲夫 Tetsuo SHIMIZU

本研究は、これまでの3年間に行ってきた国内外における観光経営人材育成の教育プログラム実施状況の調査から、観光振興・政策立案に資するための知見を蓄積した上で、今後の高度観光人材育成に向けて、社会人向けの講座を企画・運営し、その効果や課題を整理するものである。具体的には、まず、観光デー

タマーケティング分野の有識者に対し、オンラインによるインタビュー調査を行った。これらの知見を基に、現在および将来における地域観光振興組織のリーダー人材に向け、観光に関わるデータを活用しての「分析結果の解釈方法を理解する」ための教育プログラムを設計し、開催した。本講座は

COVID-19感染症拡大状況により、オンラインで開催するものとした。講義終了時における受講者アンケートにおいて、QGISを使用しているデータ分析手法や解釈手法の習得について高い満足度を得られた。今後の教育プログラム展開への示唆を得ることができた。

持続可能な観光開発に基づく森林保護地域の SWOT 分析 : バングラデシュのラフチャラ国立公園を事例研究

Hussain M.I. and Khanal B.P.

本研究では、資源と地域住民コミュニティの賢明な利用に関する研究領域における持続可能な森林観光開発の可能性を探る。これを計画し、適切に実施するために、バングラデシュ・パルジョンタン社から取得したアンケート（一次データ）や二次データの助けを借りて、住民、訪問者、公園の職員のインタビューを含む様々な管理と意思決定ツールが使用されました。

これらのデータに基づいて、強み、弱点、機会、脅威（SWOT）を分析し、丘陵地帯の持続可能な森林保護地域観光を改善するために必要な管理戦略を特定した。研究成果は、様々な自然の魅力と古代文化を保持する地元の人々のユニークな文化を持つ確立された地域森林観光地は、インフラや基本的な施設の欠如が重要な弱点である一方で、

地域の強みです。持続可能な森林保護地域の観光開発と管理のために、いくつかの戦略について、内部の強みと外部の機会を最大化し、内部の弱点と外部の脅威を最小化することが提案されている。ただし、持続可能な観光の戦略的管理のためのより実行可能なオプションを特定する上で、SWOT分析を継続的に改善する余地がある。

ネパールの観光産業における新型コロナウイルスの影響と政策提言

Hussain M.I. and Khanal B.P.

歴史上初めて、ほぼすべての国内外の観光地は新型コロナウイルスのパンデミックのために世界中の旅行のための制限を持っている。コロナウイルス(COVID-19)大流行を世界210カ国以上で進行中の問題と呼んでいる。本研究の目的は、ネパールにおけるCOVID-19の観光への影響と、ネパールの観光産業のさらなる発展のためのエビデンスに基づく政策と戦略を提案することである。本研究で使用された二次データは、ネパールの観光省や他の様々なウェブソースから取得され、主要デー

タはオンライン調査から収集され、52のサンプルを収集した。回答者は、ホスピタリティ、教育コンサルティング、ツアー会社、冒険と遠征、トレッキング代理店、および国の観光起源から政府関係者でした。この研究は、ネパールのGDP(国内総生産)における観光貢献が、他のセクターとつながりのある重要なセクターであることを強調している。また、ネパールの観光産業は国際的な要因に依存しており、ネパールの観光産業は外国人観光客に大きく依存しており、2020年

の登山許可の取り消しは、外貨の収入だけでなく、地域経済、観光セクターやその他の分野での何千もの雇用の損失に影響を与えている。全体的な分析は、将来の観光分野で開発と管理を促進し、協力するための利害関係者と官民パートナーシップイニシアチブの能力を構築することを示唆している。

膨大な位置情報付きツイートからの旅先リスク情報の抽出可能性の検討

倉田 陽平 Yohei KURATA

吉田 伊武貴 Ibuki YOSHIDA

今まで情報工学を中心にソーシャルビッグデータを活用して人気／お薦めの訪問先や観光行動のような「ポジティブな観光情報」を導出するような研究は多数なされてきたが、他方で、観光者に役立つ情報として、旅先での危険や失敗可能性のようなネガティブ情報も

ありうる。twitterをはじめ各種 SNS上には日々大量の失敗談が投稿されている。そこでツイッター上の膨大な位置情報付きツイートから「失敗談投稿」を抽出する判別器を構築し、これによって抽出された失敗談ツイートを地図上にマッピングすることにより、人々

が不慣れな土地にて行動する際に参考となるような旅先でのリスク情報をシステムティックに構築できることを実証した。特に、静岡県内の複数の観光地において、このアイデアがうまく機能することを検証した。

ヴァーチャルツアーやオンラインツアー等の仮想的観光の研究

倉田 陽平 Yohei KURATA

川原 晋 Susumu KAWAHARA

コロナ禍において、潜在的旅行者が、全天周パノラマ画像や実時間動画配信などの情報通信技術を利用して、現地に行かずに観光を仮想体験するオンラインサービスが様々な企業や施設から提供されている。これらの仮想的観光サービスの現状と既存の取り組みを整理し、今後の研究課題を洗い出した。また、自身が以前に開発したバーチャルツアー作成・

閲覧ツール「だれでもガイド!」の改良を試みるとともに、このツールを利用して①川原研学生と共にベトナムの仮想ツアーの試作を進めた。②また、愛知大学地域政策学部駒木ゼミに協力して、愛知県豊橋市を対象とした仮想まちあるきイベントを実現させた。③本学 OGの真田風さん及び福島県立テクノアカデミーの学生諸君と、福島県各地の

仮想ツアーを作る遠隔ワークショップを実施した。

協力学生：海老沢結 狭間辰之 佐藤彩生

コロナおよびポストコロナ禍の観光旅行に関する心理的要因と観光の影響への態度の関係

直井 岳人 Taketo NAOI

5、6月にポストコロナ期の観光動機と観光の地域への影響に関する態度の関係についてWEB質問票調査を行い、概ね両者間に正の関係があることを明らかにし、日本観光研究学会全国研究発表大会で結果を発表した。また10月に都道府県境を超える国内宿泊観光旅行意向に関するWEB質問票調査を実施し、

社会現象としての観光に関する態度である「観光の好影響に関する態度」が、直接、あるいは「ethnoncentrism」を経由して、その人の個人的な心理傾向である、「自分が観光旅行をすることに関する態度」に正の影響を及ぼすことが分かった。この結果は日本観光研究学会「新型コロナ・特別プロジェク

ト」経過報告会で報告された。また、5月の調査の結果と、自らの先行研究を含む国内外の先行研究のレビューを基にした、感染症流行期およびその前後における観光地での訪問客と他者との係わりについての特集論文を投稿した。

観光における満足度とロイヤルティの規定要因に関する研究

直井 岳人 Taketo NAOI

東京ディズニーランドを対象として質的研究を行い、観光者の来訪プロセスに関する行動を詳細に把握し、来訪前の計画に対する来訪中の Incomplete Planned Experiencesが観光者満足度に肯定的な影響を与える場合の条件・内容の解明を目指した。その結果、来訪前の計画に対する来訪中の Incomplete Planned Experiencesが発生してもなお当日

の体験を満足と評価する理由について、「想定内」「優先順位」「行けただけで満足」「臨機応変な対応」「次の来訪で補完」の5つのカテゴリが抽出され、これらのカテゴリを整理した結果、見残し・やり残しの発生が観光者満足度へ肯定的に影響する背景として、「来訪当日の行動の想定」「来訪当日の満足度の想定」「次回来訪時期の想定」「計画達

成のための行動」「計画変更に関する行動」が示唆された。

協力学生：河田 浩昭

アウトドア・アクティビティ目的地への移住における観光経験の役割の検討

直井 岳人 Taketo NAOI

この研究は、経験的な研究の域をほとんど出していない、観光経験をきっかけとする移住プロセスにおける観光経験の役割を、定性調査と定量調査によって理解しようとするものである。今年度は定性調査の結果を基にした論文が海外の査読付き学術雑誌(Asia Pacific

Journal of Tourism Research)に受理されている。この論文で示した研究では、沿岸部の自治体におけるサーフィン志向の移住者を対象に移住に至る経緯に関するインタビュー調査を実施し、データを、複線径路等至性モデル

(Trajectory Equifinality Model)を用いて分析した。その結果、サーフトリップ経験がサーフィン志向ライフスタイルの形成に寄与し、その後の移住が実現されたことが示唆された。

協力学生: 岡 雄気

観光プロモーションビデオと訪問経験による観光地イメージへの影響：香港の都市部と島嶼部の比較

直井 岳人 Taketo NAOI

この研究は、観光プロモーションビデオの視聴と訪問経験が観光地イメージに及ぼす影響を明らかにすることを目的とした。これら2要因の観光地イメージへの影響を同時に検証した研究は見当たらない。調査では日本人を対象とし、香港の都市部のビデオを視聴する回答者群、島嶼部のビデオを視聴する回答者群にはビデ

オの視聴後、統制群はビデオの視聴をしないままで、観光地としての香港のイメージを評定するWEB質問票調査を実施した。その結果、「島らしさ」(Cognitive Image)は島嶼部ビデオの視聴による正の影響を受けるものの、それ自体は全体イメージに対して負の影響を与える為、島嶼部ビデオの視聴は全体イ

メージに負の影響を与えうるという結果になった。本研究は、SNS等を通じた観光プロモーションビデオ配信の際は、その観光地において典型的ではなく観光対象のイメージの発信には慎重にある必要があることを示唆したと言える。

協力学生: 黄 淑華

ボランティアツーリズムの観光要素が参加動機と参加意向に及ぼす影響

直井 岳人 Taketo NAOI

本研究では、利己的・利他的動機の区分に基づき、ボランティアツーリズムの観光要素が参加動機と参加意向に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした。こうした動機の枠組みに基づいたボランティアツーリズム参加動機に関する研究は見当たらない。調査では沖縄県居住経験のない大学生/大学院生を対象

に、観光要素の強弱に差があるボランティアツーリズムのシナリオ(夏季と冬季のビーチクリーニング)を想定した後、参加動機の強さと参加意向の強さの尺度評定を依頼するWeb質問票調査を行った。その結果、観光要素の強いシナリオの方が利己的動機である「自然体験」動機が強まり、参加意向が有

意に高く、「自然体験」動機が参加意向に有意な正の影響を与えたる事が分かった。従って、幅広い若年層のボランティア活動参加を促進する上で、「自然体験」などの活動の観光要素を活かすことが有効な手段となる可能性がある。

協力学生: 黒須 康太

観光・交通分野におけるリスク分配契約に関する研究

日原 勝也 Katsuya HIHARA

航空会社と空港の関係のように、異業種の主体間の中には、対立関係と協調関係が共存する複雑で多面的な構造を有するものがあり、契約理論、ゲーム理論等の観点から興味深い。我が国でも、地方空港が航空会社と路線収入のリスクを分配する契約例が現れ(能登空港搭乗率保証契約(2003〜)等)、国交省も、羽田空港の発着枠の分配において、地方

路線向け発着枠配分につき、両者のリスクシェア等の協調内容を加味する事態も生じている(2012年〜)。空港のコンセッション契約においても、空港側と航空会社が需要変動リスクを共有する方式の着陸料を設定する例が生じてきている。

本研究は、空港と航空会社のリスク分配契約に関する先行研究を踏まえ、より一般的な

状況へ分析の拡張を試みるものである。2019年度には、DMOに代表される外部の旅行需要促進のための組織との連携について、上記空港と航空会社の関係に加味して、不完備契約理論・ゲーム理論の観点から、どのように旅客需要変動リスクを関係者間でシェアするリスク分配契約の構造化適切かについて、基礎的な分析結果を得た。

データフュージョンによる時空間解像度の高い地域観光統計整備手法の開発

日原 勝也 Katsuya HIHARA

日原 勝也（分担者）、清水 哲夫（研究主催者）、小笠原 悠（分担者）、大平 悠季（分担者）

地域観光地は観光現象や評価に関するデータを継続的に取得し、適切なマーケティングや資源開発につなげる必要があるが、そのためには特に狭域 DMOの施策・事業立案に役立つ解像度の観光統計・データを整備する方法論を学として提案する必要がある。本研究では、延べ宿泊数データに特化し、国家観光統

計、民間データ企業の滞在人口分布データ、および Wifiパケットセンサーデータなどを組み合わせて、観光地内の属性別延べ宿泊者数をできるだけ細かい時空間解像度で推計する方法を開発する。その際、DMOの施策・事業ニーズを徹底的に洗い出し、その評価に必要な指標データと推計方法の Porto

Folioを提示する。研究期間を3年とし、観光学、交通学、地理学、経済学、経営工学を専門とする6名による学際的なチームで研究を遂行する。本研究は、世界の観光統計研究に新しい視点と大きなインパクトを与え、DMOのデータ活用人材層の強化・育成にも貢献する。

温泉地における客数増加の要因分析に関する研究

日原 勝也 Katsuya HIHARA 小笠原 悠 Yu OGASAWARA

温泉浴の観光需要に与える影響は大きい。温泉地の宿泊人員はピーク時のバブル期前後から1、300万人泊減少しており、宿泊施設数も大幅な減少傾向となっている。温泉地の低迷要因の指摘や再活性化に関する提言が数多くなされているが、現状の温泉地研究は各温泉地の取り組みを明らかにした定性的な研究が殆どで、地域間の比較が可能な

オープンデータを用いて客数の増加に寄する要素を定量的に明らかにした研究は限定的である。本研究は、データ制約から従前十分に分析されていない市町村、特に、温泉地が位置する全国85市町村を対象として、入湯客・宿泊客の増加に繋がる要因について、推計データを用いた新たな定量的分析を試みる。

観光地へのアクセス状況などの従来から議論されている要因に加え、最近増加している訪日外国人観光客に関する要因も加え、温泉地所在の市町村レベルで、集客にとって有効な施策・要因について新たな知見の習得が期待される。協力学生：目代風 岡本直之 鈴木祥平

ふるさと納税における「返礼品」の現状とその特性についての研究

日原 勝也 Katsuya HIHARA 小笠原 悠 Yu OGASAWARA

ふるさと納税制度は、現在、高額返礼品、地域産品の範囲等の問題で、制度の見直しがなされるなど大きな岐路に立たされている。他方、こうした状況の分析の出発点となる返礼品と寄付の関係については、定量的に分析した研究が非常に限定的で、客観的な研究が十分になされているとは言い難い。ふるさと納税制度をより良い内容とする議論に資するた

め、返礼品と寄付の関係を分析することは非常に重要である。本研究は、こうした観点から、ふるさと納税の寄付先自治体を決める際、多くの人が利用している、ふるさと納税に関するインターネット上のサイトに着目し、そうしたサイト上における返礼品の掲載内容に関するデータを独自に収集した。そのデータに基づき、

返礼品と寄付の関係について、定量的な分析を試みる。まず、返礼品の分類を行い、その分類ごとに、効果的な返礼品の種類、ふるさと納税の額との関係などに関する分析を行うことで、新たな知見が得られることが期待される。

協力者：関根佑輔
協力学生：鈴木祥平

プライベートロジング・シェアリング・サービス (Airbnb 他) に関する研究

日原 勝也 Katsuya HIHARA

本研究では、シェアリングエコノミーのなかでも、プライベートロジングのシェアリングサービス（民泊）について、webベースのプラットフォームを用いて世界に革命的な変革をもたらし、旅行のみならず宿泊分野においても、また、不動産賃貸分野においても大きな影響をもたらした、Airbnbについて、経営学、経

済学、社会学、情報学等他分野からの多くの研究論文について整理し、Airbnbのもたらす旅行者、ホスト、旅行業界、地域住民、地域社会等への影響や評価の方法論について、包括的に分析を行った先行研究等に基づき、我が国の状況等を加味して、より包括的な研究レビューとすることを試みている

ものである。非常に変化の大きいシェアリングエコノミーにおいても、安定的に拡大が続いている Airbnbをはじめとするハウジングスペースシェアリングについて、内外における最新の学術知見を整理し、今後の研究の課題等を明らかにすることが期待できる。

協力学生：屋良英美絵

イメージ回復の為の災害後コミュニケーション戦略

Wu Lingling

災害発生後、観光市場との最善のコミュニケーション方法を理解するという事は、潜在的な観光客によってもたらされた誤解に対処しようと努めている市場組織にとっては極めて重要である。過去に実施された災害後のコミュニ

ケーション戦略を要約した研究はあるが、これらの戦略に対する観光客の反応に関する研究は学術分野では不足しているように見受けられる。この調査は、目的地マーケティング組織で一般的に使用されている災害復

旧メッセージに対する観光客の反応を調査するため為の実験的方法論を採用した。その結果、観光客に被災地への訪問を促す様々なメッセージの有効性が明らかになった。

モバイル空間統計を利用した災害後の人口移動の分析

Wu Lingling

本研究では、モバイル空間統計を利用して人口移動分析を試みる。集約されたデータから行動パターンを引き出す為、4種類の異なる潜在変数分析(Latent Variable Analysis methods: LVA)を採用した: Independent Component Analysis(including FastICA

and Spatial colored ICA)、Non-negative Matrix Factorization (NMF)、Sparse Principal Component Analysis (SPCA)。各々のLVA手法には集約された母集団から行動パターンを抽出する際の長所と短所が示されている。その結果、複数のLVA手法

を用いて共通のパターンを見つける事は人口動態の型を理解し説明をする為の強固な方法であることを示唆している。最後に、この研究はモバイル空間統計を使用することにより、災害発生後の人口の動的变化を評価する適切かつ実用的なオプションである事を示している。

不確実性を考慮した観光需要の季節性のパターン類型

小笠原 悠 Yu OGASAWARA

観光需要の季節性は年ごとに一定ではなく長期間で変動することが一般的である。このような観光需要の季節性を表す指標は数多く提案されているが、変動という情報は含まれていなかった。よって、複数の地域や施設の季節性のパターンを変動を考慮して見る際には、これまでの観光研究では、グラフィカル分析

が採用されてきた。しかし、グラフィカル分析では数多くの地域や施設を対象とすることは難しい。本研究では季節性の変動を区間値データにすることで不確実性を考慮した新たな季節性の指標、interval-valued seasonality indexを提案した。2011-2019年の日本の宿泊実績データに対してこの新

たな季節性の指標を算出し、Ogasawara and Kon (2021)の示したWard法を適用することで、都道府県別の日本の宿泊需要の季節性をその不確実性を考慮して類型化を実施し、その特徴を明らかにした。

価値共創におけるサービス提供者の資源統合とサービススクリプトの活用

阿曾 真紀子 Makiko ASO

観光需要の季節性は年ごとに一定ではなく長期間で変動することが一般的である。このような観光需要の季節性を表す指標は数多く提案されているが、変動という情報は含まれていなかった。よって、複数の地域や施設の季節性のパターンを変動を考慮して見る際には、これまでの観光研究では、グラフィカル分析

が採用されてきた。しかし、グラフィカル分析では数多くの地域や施設を対象とすることは難しい。本研究では季節性の変動を区間値データにすることで不確実性を考慮した新たな季節性の指標、interval-valued seasonality indexを提案した。2011-2019年の日本の宿泊実績データに対してこの新

たな季節性の指標を算出し、Ogasawara and Kon (2021)の示したWard法を適用することで、都道府県別の日本の宿泊需要の季節性をその不確実性を考慮して類型化を実施し、その特徴を明らかにした。

プログラミング教育と地域資源を結びつけた観光教育および地域活性化についての研究

阿曾 真紀子 Makiko ASO

2018年からかかわっているプログラミング教育と地域の資源をつなぐ観光教育の研究においては、2020年度は、公益財団法人日本離島センターの研究助成金を得て、奄美大島の古仁屋小学校を対象に研究調査を実施した。

調査は、「まちの魅力を発見する」といった地域資源を小学生がプログラミング授業で作成したCMづくりをする単元において、小学生とその保護者にアンケートを実施したところ、テーマに地域資源を用いることでコミュ

ニケーションが高まることやその効果によって保護者の教育関与に期待できることが示唆されたことを報告した。また、教科を担当した教員の授業デザインは、サービスデザインプロセスの研究としてサービス学会で口頭発表をした。

宿場町品川宿周辺のまちづくりの継続性とその価値の研究

阿曾 真紀子 Makiko ASO

昭和63年に設立した旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会は、北品川～青物横丁までの6商店街・商店会を中心に、東海道の歴史性を活かしたまちづくりを目標に掲げ、東海道五十七次の宿場町や海外および各地域との交流事業や勉強会、祭りの実施など品川宿の伝統

と文化遺産を若い世代に伝え地域の発展を目指し、次の世代の子供たちのためにさまざまなテーマで活動に取り組んでいる。そのまちづくりと旧東海道第一宿の宿場として栄えた旧東海道北品川本通り商店会に位置するゲストハウス品川宿の活動を中心にまち

づくりの継続性とその価値について研究している。これらの研究では、まちづくりの成り立ちと継続性に関して、エコシステムの観点でのまちづくりについてを2つの学会で発表した。

菊池 俊夫 Toshio KIKUCHI

口頭発表

菊池 俊夫、世界地誌学習の可能性としての東南アジア・オセアニア。日本地理学会秋季学術大会公開講座、オンライン、2020年 11月。

論文・図書

菊池 俊夫(2021)：観光地誌学のすすめ。観光科学研究、14、9-16。

飯塚 遼・矢ヶ崎太洋・菊池 俊夫(2021)：ビールツーリズムのロカリティの再編と広域化—フランス・ノール県ダンケルク郡を事例に—。観光科学研究、14、87-96。

菊池 俊夫(2021)：世界地誌学習の可能性としての東南アジア・オセアニア。新地理、69、14-22。

Kikuchi, T., Matsuyama, H., Sasaki, L. and Ranaweera, E. eds (2021) : Geography of Tokyo. Asakura Publishing, 158p.

田林 明・菊池 俊夫・西野寿章・山本 充編著(2021)：「日本農業の存続・発展—地域農業の戦略—」農林統計出版、395ページ。

菊池 俊夫(2021)：「地の理の学び方—地域のさまざまな見方・考え方—」二宮書店、152ページ。

東京都立大学小笠原研究委員会編(代表編集幹事 菊池 俊夫)(2021)：「世界自然遺産 小笠原諸島—自然と歴史文化—」朝倉書店、196ページ。

飯塚 遼・菊池 俊夫(2021)：「観光地誌学—観光から地域を読み解く—」二宮書店、188ページ。

沼田 真也 Shinya NUMATA

口頭発表

山口香春、森本 彩夏、保坂 哲朗、沼田 真也、佐竹 暁子 長期群集フェノロジーデータを用いた半島マレーシアにおける植物の開花・結実の解析 時間生物学会第 27回(オンライン開催) 2020年 9月

Ngo, K. M., T. Hosaka, S. Numata. Preferences of wildlife and their relationship with childhood nature experience amongst residents in a tropical urban city. The 30th Annual Meeting of the Japan Society of Tropical Ecology (Online) Nov. 2020.

Hossain, M. I., S. Numata. Stakeholders' perceptions regarding protected area land use management (LUM) in Rema-Kalenge Wildlife Sanctuary, Bangladesh: a SWOT-AHP analysis. The 30th Annual Meeting of the Japan Society of Tropical Ecology (Online) Nov. 2020.

Numata, S. Childhood experiences of nature influence outdoor preferences as adults. inVIVO Planetary Health Conference (online). Dec. 2020.

論文・図書

Mahmud, M. R., S. Numata, T. Hosaka (2020) Mapping an invasive goldenrod of *Solidago altissima* in urban landscape of Japan using multi-scale remote sensing and knowledge-based classification. Ecological Indicators.111: 105975.

Nugroho, P, S. Numata. (2020a) Resident support of community-based tourism development: Evidence from Gunung Ciremai National Park, Indonesia. Journal of Sustainable Tourism: 1-16. <https://doi.org/10.1080/09669582.2020.1755675>

Nugroho, P, S. Numata. (2020b) Perceived forest-based ecosystem services and attitudes toward forest rehabilitation: a case study in the upstream of central Java, Indonesia. Journal of Forestry Science (Jurnal Ilmu Kehutanan): 14(2).

Nugroho, P, S. Numata. (2020c) Changes in residents' attitudes toward community-based tourism through destination development in Gunung Ciremai National Park, Indonesia. Journal Tourism Recreations Research. DOI: 10.1080/02508281.2020.1808753.

Nugroho, P, S. Numata. (2020d) Influence of sociodemographic profiles on support of an emerging community-based tourism destination in Gunung Ciremai National Park, Indonesia. Journal of Sustainable Forestry.

沼田 真也 環境保全活動をどう携えるか—多様化するアクターとの協働に向けて—フィールドネット・ラウンジ オンライン 総括 2021年1月

Satake, A., H. Yamaguchi, A. Morimoto, T. Hosaka, S. Numata. Flowering and fruiting phenology in tropics and its environmental drivers (General flowering and mast fruiting in SE Asian tropics: climatic mechanisms and animal responses) 日本生態学会第 68回 オンライン 2021年 3月

陸川 早紀、沼田 真也 新型コロナウイルス感染症感染拡大が小学生の外遊びに与える影響 日本生態学会第 68回 オンライン 2021年 3月

沼田 真也 子育て中のアラフィフ男性の視点から (U10 人生の選択の裏側を聞いてみよう 2: バブル経済から新型コロナまで、私たちの生存戦略) 日本生態学会第 68回 オンライン 2021年 3月

Sugiyama, N., T. Hosaka, E. Takagi, S. Numata. (2021) How do childhood nature experiences and negative emotions towards nature influence preferences for outdoor activity among young adults? Landscape and Urban Planning. 205: <https://doi.org/10.1016/j.landurbplan.2020.103971>

Hassan, N., Hashim, M., Numata, S., Tarmidi, Z., 2020, Upscaling Remote Estimation on Relative Abundance of Chengal Trees in Tropical Rainforest using Modified Canopy Fractional Cover (mCFC) Approach, IOP Conference Series: Earth and Environmental Science 540:012007.

沼田真也 (2020) 新型コロナウイルスのパンデミックが人々の活動に与えた影響 . グリーン・エージ . 6月号 : 26-29.

Hassan, N., Hashim, M., Numata, S., Tarmidi, M. Z. (2020) Estimation of chengal trees relative abundance using coarse spatial resolution hyperspectral systems, in: Hyperspectral Remote Sensing (P. C. Pandey, P. K. Srivastava, H. Balzter, B. Bhattacharya, G. P. Petropoulos, eds.), Elsevier, pp. 107-120.

大澤 剛士 Takeshi OSAWA

口頭発表

この 10 年を振り返って：実務と研究のギャップ、オープンデータとデータ共有．日本生態学会第 68 回大会．2021 年 3 月

新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言がツバメの営巣に及ぼした影響．日本生態学会第 68 回大会．2021 年 3 月

草索性植物群集の組成を決める要因は何か？．日本生態学会第 68 回大会．2021 年 3 月

世界自然遺産小笠原における観光発展と外来植物の侵入．日本生態学会第 68 回大会．2021 年 3 月

アカスジカシマカメのフェノロジー変化によるイネとの相互作用の変化．日本生態学会第 68 回大会．2021 年 3 月

都市緑地の昆虫相に景観構造が与える影響．日本生態学会第 67 回大会．2021 年 3 月

八王子市におけるゲンジボタルの生息適地の推定．日本生態学会第 68 回大会．2021 年 3 月

都市公園における中型哺乳類の行動パターン．日本生態学会第 68 回大会．2021 年 3 月

“オープン”が緩和する専門分野の壁．環境 DNA-個体群生態学会合同大会．2020 年 11 月

論文・図書

Osawa T, Nishida T, Oka T (2020) Paddy fields located in water storage zones could take over the wetland plant community. *Scientific Reports* 10:14806.

Osawa T, Ueno Y, Nishida T, Nishihiro J (2020) Do both habitat and species diversity provide cultural ecosystem services? A trial using geo-tagged photos. *Nature Conservation* 38: 61-77.

Osawa T, Nishida T, Oka T (2020) High tolerance land use against flood disasters: How paddy fields as previously natural wetland inhibit the occurrence of floods. *Ecological Indicators* 144: 106306.

高木 悦郎 Etsuro TAKAGI

口頭発表

高木悦郎、樹皮下キクイムシの加害様式—トドマツノキクイムシの話題を中心に—、第 25 回樹木医学大会 特別講演会、オンライン、2020 年 11 月。

論文(査読付き)

Takei, S., Kobayashi, K. & Takagi, E.* (2021) Distribution pattern of entry holes of the tree-killing bark beetle *Polygraphus proximus*. *PLoS ONE*, 16, e0246812. *責任著者

Sugiyama, N., Hosaka, T., Takagi, E., & Numata, S. (2021) How do childhood nature experiences and negative emotions towards nature influence preferences for outdoor activity among young adults? *Landscape and Urban Planning*, 205, 103971.

Takagi, E., Masaki, D., Kobayashi, K. & Takei, S. (2021) Trunk diameter influences attack by *Polygraphus proximus* and subsequent mortality of *Abies veitchii*. *Forest Ecology and Management*, 479, 118617.

著書

大澤剛士 (2021) ひらかれた協働で生物多様性の研究と実践の隔たりを超える．環境問題を解く ひらかれた協働研究のすすめ (近藤康久・大西秀之 編)、かもがわ出版、東京．

大澤剛士 (2020) 半自然環境が持つ防災機能．実践版! グリーンインフラ (グリーンインフラ研究会、三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング、日経コンストラクション編)、日経 BP、東京．

大澤剛士 (2020) 科学データのデジタルアーカイブにおける必須条件「オープンデータ」. デジタルアーカイブ・ベーシック 3 自然史・理工系研究データの活用 (井上透 監修/中村覚 責任編集)、勉誠出版、東京．

Osawa T, Yoshimatsu S, Nakatani Y (2020) Specimen based records and geographic locations of carabid beetles (Coleoptera) collected mainly by Dr. Kazuo Tanaka. *Ecological Research* 35: 1029-1034

Yoshimatsu S, Watabiki D, Osawa T (2020) Specimen-based records of geometrid, pyralid, and crambid moths (Lepidoptera) with location information from the collection of Dr. Hiroshi Inoue. *Ecological Research* 35: 1051-1056

Ikeda K, Osawa T (2020) Predicting disease occurrence of cabbage *Verticillium* wilt in monoculture using species distribution modeling. *PeerJ* 8:e10290.

大澤剛士・加藤和紀・辻本明 (2020) 神奈川県足柄下郡箱根町における特定外来生物オオハングソウ (*Rudbeckia laciniata* L.) の駆除活動による著しい個体数減少. 保全生態学研究．

Kobayashi, K., & Takagi, E.* (2020) Mating systems of the tree-killing bark beetle *Polygraphus proximus* (Coleoptera: Curculionidae: Scolytinae). *Journal of Insect Science*, 20, 1-4.

*責任著者

Takagi, E., Matsuo, K., Suzuki, M., Adachi, Y. & Togashi, K. (2020) Natural occurrence of oviposition and adult emergence of the seed parasitoid wasp *Macrodasyceras hirsutum* Kamijo (Hymenoptera, Torymidae) on *Ilex latifolia* Thunberg in Japan. *Taiwania*, 65, 541-543.

論文(査読なし)

高木悦郎 (2021)：樹皮下キクイムシの加害様式—トドマツノキクイムシの話題を中心に—、樹木医学研究、25、22-25.

矢ヶ崎 太洋 Taiyo YAGASAKI

口頭発表

矢ヶ崎太洋、レジリエンス概念を導入した災害地理学の展開 ―東日本大震災後の地域社会の復興と再編を事例に―、2021年度日本地理学会春季学術大会、東洋大学(オンライン開催)、2021年 3月 26日。

論文(査読付)

飯塚 遼・矢ヶ崎太洋・菊地 俊夫(2021)：ビールツーリズムを通じたロカリティの再編と広域化 ―フランス・ノール県ダンケルク郡を事例に―、観光科学研究、14、pp.87-96.

太田 慧・矢ヶ崎太洋(2021)：オーストラリア・ケアンズにおける海岸リゾートの発展 ケアンズ近郊パームコープの事例、観光科学研究、14、pp.127-133.

論文(査読無)

矢ヶ崎太洋(2021)：東日本大震災の津波災害に伴う人口移動と再定住―地域社会の復興と再編に与える影響―、農村計画学会誌、39(4)、382-383.

清水 哲夫 Tetsuo SHIMIZU

口頭発表

小早川駿、清水哲夫、Wu, L.: 新型コロナウイルス感染症拡大期における観光集客地点滞在人口の分析、第 61 回土木計画学研究発表会、オンライン、2020 年 6 月

清水哲夫: Postコロナ時代の地域観光の姿と対応すべき道路関連施策、第 2 回 JSTE シンポジウム JSTE シンポジウム運営小委員会企画セッション「新型コロナウイルス感染症対策による 道路交通への影響」、札幌 (オンライン)、2020 年 12 月

論文 (査読付)

Wu, L. and Shimizu, T.: Analyzing dynamic change of tourism destination image under the occurrence of a natural disaster: evidence from Japan, Current Issues in Tourism, Vol.23, No.16, pp. 2042-2058, 2020, <https://doi.org/10.1080/13683500.2020.1747993>

Aoyagi, S., Le, Y., Shimizu, T. and Takahashi, K.: Mobile Application to Provide Traffic Congestion Estimates and Tourism Spots to Promote Additional Stopovers, Future Internet 2020, Vol. 12, No.5, pp.83-93, 2020, <https://doi.org/10.3390/fi12050083>

Nguyen, V. T., Shimizu, T., Kurihara, T. and Choi, S.: Generating reliable tourist accommodation statistics: Bootstrapping regression model for overdispersed long-tailed data, Journal of Tourism, Heritage & Services Marketing, Vol.6, No.2, pp.30-37, 2020, <https://doi.org/10.5281/zenodo.3837608>

川原 晋 Susumu KAWAHARA

口頭発表

竹田彩夏、川原晋、野田満 (2020)「ユニバーサルツーリズムの推進に向けた手話による観光ガイドツアーの実態に関する基礎的研究:伊勢神宮内宮をケーススタディとした口話による観光ガイドツアーとの構造比較を通して」日本都市計画学会、都市計画論文集 55(3)、729-736、2020.11

石井萌美、青木卓也、川原晋 (2020)「文化・芸術資源の価値保全に配慮した観光活用の準備のための『観光まちづくりオーラルヒストリー』調査—山口県長門湯本温泉に隣接する萩焼深川窯集落における調査からの考察—」日本建築学会大会学術講演梗概集 2020(都市計画)(選抜梗概)、pp.804-807、2020.09

小澤真里奈、川原晋 (2020)「商店街をユニークベニューとするための開催要件に関する研究—MICE レセプション会場としての継続開催に着目して—」日本建築学会大会学術講演梗概集 2020(都市計画)(選抜梗概)、pp.811-814、2020.09

益尾孝祐、長町志穂、木村大吾、井元亮佑、黒田唯香、川原晋、泉英明、福永裕美 (2020)「長門湯本温泉における観光まちづくりと連携した連鎖的なリノベーション事業の実現」日本建築学会大会学術講演梗概集 2020(デザイン梗概)、pp.376-377、2020.09

堀健一朗、海老沢結、狭間辰之、佐藤彩生、川原晋、倉田陽平 (2020)「バーチャリアリティ技術や全天周パノラマ画像、実時間動画配信技術等の ICT を利用したコロナ禍における『現地に行かない仮想的観光』の現状俯瞰、観光情報学会第 21 回研究発表会、pp.45-48、2020.12、オンライン発表

狭間辰之、海老沢結、川原晋「コロナ禍におけるフェ エコスタディーツアーの今後を見据えたオンラインツアーの開発」、第 12 回全国エコツーリズム学生シンポジウム選抜発表、日本エコツーリズム協会、2020.12

Tiku, O. and Shimizu, T.: Tourism, accommodation, and the regional economy in Indonesia's West Papua, Island Studies Journal, 2020, <https://doi.org/10.24043/isj.124>

片桐由希子、鈴木太一、清水哲夫: 訪日インバウンドプロモーションとしての成田空港トランジット & ステイプログラムの活用可能性、観光科学研究、Vol.14、pp.107-116、2021.

論文 (査読無)

小早川駿、清水哲夫、Wu, L.: 新型コロナウイルス感染症拡大期における観光集客地点滞在人口の分析、土木計画学研究・講演集、No.61(CD-ROM)、2020.

論説文・解説文

清水哲夫: 訪日インバウンド観光の現状・課題と土木業界への期待、土木技術、Vol.75、No.5、pp.7-12、2020.

清水哲夫、藤浪武志、他: 訪日外国人の視点で考える「日本の道案内」、巻頭座談会、道路、Vol.954、pp.6-11、2020.

清水哲夫: With コロナ時代の広域観光のあり方を「賑わい」から考える、建築討論 2020 年 10 月特集「感染症と賑わいの空間」、2020.

清水哲夫: 観光地内の交通とその計画を考える、観光とまちづくり、No. 542、pp.50-51、2021.

講演・研修講師等

川原 晋「観光事業と都市デザイン・まちづくりのガチ連携をめざして ~祭り・イベントから発想する~」、関西地域創生研究会、2020.05

川原 晋、田原崇雄(田原陶兵衛)、坂倉正紘(坂倉新兵衛)「萩焼深川窯」長門湯本温泉まち講習会、2020.06

川原 晋「地域資源の調査・解説から観光計画までの演習におけるオンライン授業の試行錯誤」、東京都立大学オンライン授業実践事例発表会、2020/07/30

川原 晋「観光科学の理論と実践 ~観光まちづくりの現場から~」、東進ハイスクール大学学部研究会、2020.08

川原 晋「まちづくりと公共建築整備」、国土交通大学校「建築計画(企画・設計)研修」2020.10

川原 晋「ヨコハマまち普請事業のご紹介 ~市民によるまちづくり事業を支援するには?」都市計画家協会 出前講座 @つくば市

図書 (全体監修、分担執筆)

川原晋、阿部貴弘、羽生冬佳、三浦正士、米田誠司、日本都市センター「都市自治体におけるツーリズム行政—持続可能な地域に向けて—」、研究会座長、分担執筆、公益財団法人日本都市センター、2021.03

序章 都市自治体による今後の観光行政の論点(川原晋、日本都市センター)

2 章 消費されない観光価値を生むストック型の観光行政へ(川原晋)

論文(査読付)

平田 徳恵、川原晋 (2020)「ブルーフラッグの活用による持続的な観光地づくりの可能性 - 日本初認証の2地域に着目して -」、日本建築学会技術報告集 第26巻 第63号、719-724、2020、6

竹田彩夏、川原晋、野田満 (2020)「ユニバーサルツーリズムの推進に向けた手話による観光ガイドツアーの実態に関する基礎的研究:伊勢神宮内宮をケーススタディとした口話による観光ガイドツアーとの構造比較を通して」日本都市計画学会、都市計画論文集 55(3)、729-736、2020.11

石井萌美、青木卓也、川原晋 (2020)「文化・芸術資源の価値保全に配慮した観光活用の準備のための『観光まちづくりオーラルヒストリー』調査 - 山口県長門湯本温泉に隣接する萩焼深川窯集落における調査からの考察 -」、日本建築学会大会学術講演梗概集 2020(都市計画)(選抜梗概)、pp.804-807、2020.09

小澤真里奈、川原晋 (2020)「商店街をユニークベニューとするための開催要件に関する研究 - MICE レセプション会場としての継続開催に着目して -」日本建築学会大会学術講演梗概集 2020(都市計画)(選抜梗概)、pp.811-814、2020.09

甲田亮輔、川原晋 (2020)「農家と飲食店、流通事業者の連携による農産物ブランディングの展開 - 国分寺市「こくべじ」プロジェクトを事例として -」、観光科学研究 14号、2021.03

平田 徳恵、古谷梨伽子、川原晋 (2020)「化粧品会社の企業博物館と来館者の関係からみる美容体験コンテンツの観光活用可能性」、観光科学研究 14号、2021.03

報告書、ブックレット等

地域における『日本遺産』の活用に関する調査研究報告書、八王子市、川原晋研究室、2021.03

「萩焼深川窯パンフレット」、萩焼深川窯振興協議会発行・川原晋研究室作成、2021.03

公開文書等

川原晋「観光科学 PBL 地域の読み取りから観光計画までの演習におけるオンライン授業の試行錯誤」、東京都立大学 FDレポート『クロスロード』オンライン授業実践事例発表、2021.03、<https://www.comp.tmu.ac.jp/FD/fdreport/fdreport20.html>

ときがわネットワーク〜里山基盤ものづくりの川上から川下までの事業者連携による観光まちづくり〜 ホームページ、<https://tokinet.mystrikingly.com>

岡村 祐 Yu OKAMURA

口頭発表

手代木茜・岡村祐 (2020)：海浜観光地における津波防災地域づくりに関する計画策定とその実行に観光事業者が果たす役割 - 伊豆市『観光防災まちづくり推進計画』を事例に一、日本建築学会大会学術講演会、千葉大学、2020年9月

片桐由希子・岡村祐 (2020)：ニュータウンにおける商業施設を起点とした「暮らし体験型散策路」の提案 - 犬連れの来訪客を中心として、造園学会 2020年度全国大会ポスター発表、オンライン、2020年5月

図書

阿部大輔編：『ポスト・オーバーツーリズム 限界を再生する観光戦略』、学芸出版社、2020年12月 岡村祐他「サントリーニ島——歴史的町並み保全制度の奏効と観光インフラ整備の推進」

論文(査読付)

石本東生・岡村祐・江口久美 (2020)：サントリーニ島イア地区における伝統的集落特別保護令による観光地形成 - 1993年大統領令の規定内容と運用実態の分析 -、都市計画論文集、55-2、pp.137-146

山崎一也・岡村祐 (2020)：五輪景観を構成するカメラワーク、選手、競技会場、都市景観の関係性 - ロンドン五輪における市内仮設競技会場のケーススタディ -、日本建築学会技術報告集、No.64、pp.1143-1144

野田 満 Mitsuru NODA

口頭発表

野田満：「続・ヨソモブによる『ケ』のデザインを目指して - メタフィジカル・農村計画学研究 -」、日本建築学会農村計画委員会研究協議会「農村計画のパラダイム - 今、移住・定住・地域論の達成と展望は」、ONLINE、2020.11.29

野田満：ニューノーマルか、温故知新か、集落研究オンライン座談会「フィールドワークのニューノーマル」、ONLINE、2021.02.12

劉羽佳・岡村祐・小向光 (2020)：中国の伝統的集落における窯業の現代化による歴史的景観への影響 - 中国陝西省関中地区堯頭村を事例として -、日本建築学会計画系論文集、No.774、pp.1739-1749

関谷悠・岡村祐 (2021)：空き家活用の事業展開の視点から見た分散型ホテル事業の特徴、観光科学研究、No.11、pp.135-143

論文(選抜梗概)

手代木茜・岡村祐 (2020)：海浜観光地における津波防災地域づくりに関する計画策定とその実行に観光事業者が果たす役割 - 伊豆市『観光防災まちづくり推進計画』を事例に一、日本建築学会大会学術講演梗概集、F-1(選抜梗概)、pp.807-810

論文(査読無)

岡村祐 (2021)：地域資源の一斉公開「オープンシティ・プログラム」による都市・地域のアップデート、住宅会議、No.111、pp.39-41

浅野亮平・岡村祐 (2020)：世界遺産ガイダンス施設における地域住民の参画による世界遺産活動に対する影響 - 世界遺産平泉の拡張登録構成資産・骨寺村荘園遺跡に位置する若神子亭を事例として、都市計画報告集、No.19、pp.297-304

岡村祐 (2020)：神社空間におけるコミュニケーションとレクリエーションの共存(特集：社会・環境インフラとしての神社：現代における神社の多面性を読み解く)、ランドスケープ研究、84(3)、pp.278-281

論文(査読付)

竹田彩夏・川原晋・野田満：ユニバーサルツーリズムの推進に向けた手話による観光ガイドツアーの実態に関する基礎的研究 - 伊勢神宮内宮をケーススタディとした口話による観光ガイドツアーとの構造比較を通して -、都市計画論文集 Vol.55-3、pp.729-736、2020.10

友淵貴之・野田満・青木佳子・下田元毅：COVID-19対策下の生活行動の変容にみる漁村集落の領域感覚に関する考察 -宮城県気仙沼市大沢地区をケーススタディとして -、日本建築学会住宅系研究報告会論文集、pp.83-90、2020.11

青木佳子・下田元毅・友淵貴之・野田満：漁村における生活行動・交流の変化にみる領域感覚に関する考察 -COVID-19対策に伴う緊急事態宣言前後の和歌山市加太地区に着目して -、日本建築学会住宅系研究報告会論文集、pp.91-100、2020.11

大平 悠季 Yuki OHIRA

口頭発表

Okano N., Ohira Y., Ishii A., Two-component opinion dynamics theory of official stance and real opinion including self-interaction, 12th International KES Conference: Intelligent Decision Technologies, Split, Croatia (Virtual Conference), 2020.6

Okazaki M., Ohira Y., Fukuyama K., Kuwano M., Ishii A., A Decision Support System for Inexperienced Volunteer Guides to Assist Increased Inbound Tourists in Japan, IEEE International Conference on Systems, Man and Cybernetics, Tronto, Canada (Virtual Conference), 2020.10

論文

大平悠季・中村栄樹・福山敬・桑野将司、中心市街地における施設立地を考慮した街路空間特性と歩行者通行量の関連分析、土木学会論文集 D3(土木計画学)、75(6)、pp.L317-L327、2020.

平田 徳恵 Norie HIRATA

口頭発表

平田 徳恵・堀口智子：夷隅地域におけるボトムアップ型エコミュージアム構想その 1：地域学習による活動担い手形成への実践的取り組み、日本建築学会(関東)大会学術講演 13034(教育)、千葉大学、2020年 9月

堀口智子・平田 徳恵：夷隅地域におけるボトムアップ型エコミュージアム構想その 2：地域資源発掘調査によるまちづくり活動への示唆、日本建築学会(関東)大会学術講演 13035(教育)千葉大学、2020年 9月

論文(査読付)

平田 徳恵・川原晋(2020)：ブルーフラッグの活用による持続的な観光地づくりの可能性～日本初認証の 2 地域に着目して、日本建築学会技術報告集 第 26巻 第 63号、pp.719-724.

平田 徳恵・古谷梨伽子・川原晋(2021)：化粧品会社の企業博物館と来館者の関係からみる美容体験コンテンツの観光活用可能性、観光科学研究、第 14号(菊地 俊夫教授退官記念号)、pp.117-126

論文(査読無)

野田満：計画学における漁村研究の系譜・序、農村計画学会誌 Vol.39-1、pp.7-10、2020.06

藤本雅広・永島奨之・岡田まどか・山本翔也・下田元毅・野田満：若手の若手が語る漁村の 2030年、農村計画学会誌 Vol.39-1、pp.49-54、2020.06

野田満：続・ヨソモノによるケのデザインを目指して、日本建築学会大会 PD資料集「農村計画のパラダイム-今、移住・定住・地域論の達成と展望は」、pp.24-25、2020.11

Okazaki M., Ohira Y., Fukuyama K., Kuwano M., Ishii A., A Guide Support System for Volunteer Guides of Inbound Tourists in Japan using Collaborative Filtering, Local Proceedings of the 20th International Conference on Group Decision and Negotiation (GDN2020), Paper no.10, 2020.

Okano N., Ohira Y., Ishii A., Two-component opinion dynamics theory of official stance and real opinion including self-interaction, In: Czarnowski I., Howlett R., Jain L. (eds) Intelligent Decision Technologies. IDT 2020. Smart Innovation, Systems and Technologies 193, pp.461-470, 2020.

Okazaki M., Ohira Y., Fukuyama K., Kuwano M., Ishii A., A Decision Support System for Inexperienced Volunteer Guides to Assist Increased Inbound Tourists in Japan, The Proceedings of 2020 IEEE International Conference on Systems, Man and Cybernetics (SMC), pp.486-492, 2020.

論文(査読無)

平田 徳恵・堀口智子(2020)：夷隅地域におけるボトムアップ型エコミュージアム構想その 1：地域学習による活動担い手形成への実践的取り組み、日本建築学会(関東)大会学術講演梗概集(教育：13034)p.67-68.

堀口智子・平田 徳恵(2020)：夷隅地域におけるボトムアップ型エコミュージアム構想その 2：地域資源発掘調査によるまちづくり活動への示唆、日本建築学会(関東)大会学術講演梗概集(教育：13035)p.69-70.

報告書

清水哲夫、平田 徳恵(編著)「令和 2年度東京都観光経営人材育成事業報告書」2021年 3月

倉田 陽平 Yohei KURATA

口頭発表

吉田伊武貴、倉田陽平、旅先における失敗リスクを把握可能にするための機械学習を用いた失敗談ツイート抽出方法の構築と静岡県内観光地での適用 .第 7回とうかい観光情報学研究会、pp.1-4、オンライン、2021年 3月

堀 健一郎、海老沢 結、狭間 辰之、佐藤 彩生、川原 晋、倉田陽平、バーチャルリアリティ技術や全天周パノラマ画像、実時間動画配信技術等の ICTを利用したコロナ禍における『現地に行かない仮想的観光』の現状俯瞰、観光情報学会第 21回研究発表会、pp.45-48、オンライン発表、2020年 12月

直井 岳人 Taketo NAOI

口頭発表

大西陽太・上原明・飯島祥二・直井岳人(2020年12月12日) 観光学領域のアトラクションに関するトランザクションの事例：沖縄県那覇市国際通り周辺の商業施設におけるフロント・バックの分析を通して人間・環境学会第 27回大会 オンライン

論文(査読有)

上原明・直井岳人・飯島祥二・伊良皆啓(2020)：観光者の購買行動を促す店舗の評価に関する研究：沖縄県那覇市国際通り周辺商店街における土産物購買の場合 観光研究 32(1)：pp.5-18.

Okano, Y., & Naio, T. (2020): Influence of tourist experiences in migrating to an outdoor activity-based tourism destination: A case study. Asia Pacific Journal of Tourism Research, 25(12): pp.1269-1294.

日原 勝也 Katsuya HIHARA

口頭発表

Hihara, K., "Analysis of Airport- Airline Relationship with a Third Party Tourism Promotion" 国際交通経済学会 (ITEA)年次総会, 2020年 6月 4日 (中国・上海・交通大学)(COVID-19によりキャンセル)

Hihara, K., "Analysis of Airport- Airline Relationship with a Third Party Tourism Promotion" INFORMS 年次総会, 2020年 11月 10日 (COVID-19により大幅大会体制変更のため発表せず)

Wu Lingling Wu Lingling

論文

Lingling WU, Makoto CHIKARASHI, Hong T. A. NGUYEN, Akimasa FUJIWARA. (2021). Analysis of post-disaster population movement by using mobile spatial statistics. International Journal of Disaster Risk Reduction, 54, 102047.

論文

原辰徳、ホーバック、宮本瞭、青池孝、太田順、倉田陽平 (2020)：周辺散策の見どころ情報の提示によるまち歩き観光プランニングの支援．観光と情報 16(1)、pp.33-48

論文(査読無)

直井岳人・河田浩昭(2020)：観光におけるサービスの側面とそのマネジメント サービスソロジー学会誌「サービスソロジー」特集号「ツーリズムと地域資源」全 8ページ

直井岳人・十代田朗・飯島祥二・上原明(2020)：ポストコロナ観光旅行意向、動機と観光に対する態度の関係：コロナ禍緊急事態宣言前の東京都と周辺 3県のケース 日本観光研究学会全国大会学術論文集 35 pp.125-128.

直井岳人 (in press)：観光地での訪問客と他者との係わり：感染症流行期およびその前後における訪問客心理の観点から 観光研究(特集) 32(2) 全 4ページ

論文

Hihara, K. 2021. "The Recent Development of Climate Change Mitigation in Aviation Sector".

In: Chen et al. (ed) Handbook of Climate Change Mitigation and Adaptation 3rd ed., Springer, Switzerland, P 489-523. Editors (view affiliations) Wei-Yin Chen, Maximilian Lackner, (forthcoming)

Hihara, K., 2021.3 "Climate Change Mitigation Measures in Aviation Sector and Implication for Tourism Sector" 航空分野における気候変動対策と観光分野への示唆"観光科学研究 第 14号 pp97-106

小笠原 悠 Yu OGASAWARA

口頭発表

レベニューマネジメントと観光・ホスピタリティの関わり、小笠原悠、中国・四国地区 SSOR(日本オペレーションズ・リサーチ学会) 特別講演、2020/11、21.

論文

変数の特性に対応した回帰分析モデルの活用法 (特集 発育発達研究における統計手法)、相馬優樹、小笠原悠、大藏倫博、子どもと発育発達、18(3)、173-178、2020.

Comparing two clustering methods for interval-valued data, Yu OGASAWARA, Yuto Hisano, and Masamichi Kon, Proceedings of the 11th International Conference on Nonlinear Analysis and Convex Analysis and International Conference on Optimization: Techniques and Applications, (in press).

Two clustering methods based on the Ward's method and dendrograms with interval-valued dissimilarities for interval-valued data, Yu OGASAWARA and Masamichi Kon, International Journal of Approximate Reasoning, 129, pp.103-121, 2021.

阿曾 真紀子 Makiko ASO

口頭発表

阿曾真紀子、宿場町品川宿の歴史をつむぎ・つなげる：品川宿のまちづくりの役割と実践、地域デザイン学会第9回全国大会、オンライン、2020年9月.

阿曾真紀子、「拡大された出会い」による価値創造を強化する可能性の検討ーカスタマイズするサービスプロセスの観点からー、日本マーケティング学会カンファレンス、オンライン、2020年10月。(査読つき口述報告)

阿曾真紀子、小学校のプログラミング授業のサービスデザインとデザインプロセス、第9回国内大会サービス学会、オンライン、2021年3月.

論文

阿曾真紀子 (2021): 価値共創におけるサービス提供者の資源統合とサービススクリプトの活用(査読付)、マーケティングレビュー2巻1号、pp.47-52.

報告書(研究)

阿曾真紀子 (2020): 軸と核の役割と「宿場町の賑わい」価値の継続性ー地域資源統合と価値共創の観点からの考察、2020年度観光学術学会研究報告要旨集、pp.92-93.

阿曾真紀子 (2020): 宿場町品川宿の歴史をつむぎ・つなげる：品川宿のまちづくりの役割と実践、地域デザイン学会第9回全国大会予稿集、pp.20-23.

阿曾真紀子 (2020): 「拡大された出会い」による価値創造を強化する可能性の検討ーカスタマイズするサービスプロセスの観点からー、日本マーケティング学会カンファレンス・プロシーディングス vol.9、pp.39-42.

阿曾真紀子 (2020): 小学校のプログラミング授業のサービスデザインとデザインプロセス、第9回国内大会サービス学会講演論集、pp.182-188.

報告書(研究調査)

阿曾真紀子 (代表): 「プログラミング教育授業」児童と保護者のアンケート調査結果報告書、公益財団法人日本離島センター令和2年度離島人材育成基金助成事業(研究助成)

04

特定学術研究

Research Summary

4-1. 自然環境マネジメント領域

菊池 俊夫 Toshio KIKUCHI

基盤研究 C(一般)：フードツーリズムのフレームワークを用いた農村再生システムの地理学的研究 .. 平成 29年～32年度(代表・採用)

基盤研究 C(一般)：存続・発展からみた日本農業の地域構造研究 .. 令和 2年度～令和 4年度(分担・採用)

基盤研究 C(一般)：ワイルドライフツーリズム枠組みを活用した野生動物と人間社会の共生システム. 令和 2年度～令和 5年度(分担・採用)

東京都産業労働局観光部：東京における MICEの調査研究.

東京都産業労働局農政部：東京における農地保全における市民農園・農業体験農園の役割に関する調査研究.

Economic and Social Research Council Fund (UK Royal Academe):Explorations of comparative ruralism in the UK and Japan

沼田 真也 Shinya NUMATA

2020年度 SATREPS(地球規模の環境課題の解決に資する研究) 研究分担者「マレーシア国サラワク州の保護地域における熱帯雨林の生物多様性活用システムの開発(京大・市岡孝朗)」

大澤 剛士 Takeshi OSAWA

基盤研究 C(一般)：自然生態系と連続した土地利用はハビタットの質を引き継ぐか?. 2020年～ 2022年度(代表)

基盤研究 A(一般)：動物リレーモデルに基づく野生動物由来感染症拡大予測. 2020年～ 2022年度(分担)

基盤研究 B(一般)：海洋島における外来生物の侵略性：植物の栄養利用特性と生態系の土壌特性との相互作用. 2019年～ 2021年度(分担)

基盤研究 B(一般)：農地景観の変化と気候変動が水田害虫の分布拡大に与える影響：長期データによる検証. 2016年～ 2021年度(分担)

基盤研究 C(一般)：景観遺伝学的解析をもちいたツキノワグマの遺伝構造を形成する環境要因の解明. 2018年～ 2020年度(分担)

水源地生態研究会(水源地環境センター)

高木 悦郎 Etsuro TAKAGI

科研費 若手研究：樹皮下キクイムシの産卵選好性と寄主利用能力およびその地理的変異の解明. 2019年度－2021年度(代表)

4-2. 地域計画・マネジメント領域

清水 哲夫 Tetsuo SHIMIZU

基盤研究 B「アジア途上国における多様なコネクティビティを有する国境横断型まちづくりの研究」(研究代表者: 張峻屹広島大学教授、2019～2021年度)

基盤研究 B「データフュージョンによる時空間解像度の高い地域観光統計整備手法の開発」(研究代表者: 清水哲夫、2020～2022年度)

基礎研究 C「観光混雑回避に向けた自発的行動変容を促すゲーミフィケーション導入に関する実証研究」(研究代表者 桑 奕平 芝浦工業大学准教授、2020～2022年度)

国土交通省国土技術政策総合研究所委託研究「地域 ITS マネジメント研修支援業務」(業務責任者: 清水哲夫、2020年度)

東京都産業労働局観光部委託事業「観光経営人材育成事業」(実施代表者: 清水哲夫、2017～2022年度)

川原 晋 Susumu KAWAHARA

基盤 A「観光地環境管理と市場活動の統合型計画技術『地域観光プランニング』の詳細化と実装化」H29年度採択～2021年度、研究代表者

基盤 B「ベトナム香江流域圏における歴史生態学的環境の持続的マネジメント計画論の構築」H31年度採択、研究分担者(研究代表者: 佐藤滋 早稲田大学)

萌芽研究「地域文化システムとしての料亭に関する組織と変遷」2020年度採択研究分担者(研究代表者: 岡崎篤行 新潟大学)

【受託研究: 八王子市 都市戦略部 日本遺産準備担当課】「地域における『日本遺産』の活用に関する調査研究」受託組織: 川原晋研究室、2020.11 - 2021.3

【受託研究: 埼玉県ときがわ町 ときがわネットワーク】里山基盤ものづくりの上流から下流までの体験を通した「DIY消費」ツーリズム造成事業、企画開発ワーキングの開催支援及び事業効果の検証」受託組織: 川原晋研究室、2020.10 - 2021.2

【東京都立大学 傾斜的研究費 学長裁量枠(社会連携活動支援)】「産官学共創型の観光地形成と経営のモデル化」2020.4- 2021.3

岡村 祐 Yu OKAMURA

挑戦的研究(萌芽): 地域文化システムとしての料亭に関する組織と変遷(代表 新潟大学 岡崎篤行)、研究分担者、R2-4

基盤研究(C): 生活都市のビジョンの共実現と持続可能な観光の連動的な展開(代表 金沢工業大学 片桐由希子)、研究分担者、R2-4

基盤研究(C): 都市近郊における散策路事業の成立構造・計画思潮の変遷と縮退時代における活用可能性、(代表 東京都立大学 岡村祐)、研究代表者、H30-32

基盤研究(A): 観光地環境管理と市場活動の統合型計画技術「地域観光プランニング」の詳細化と実装化(代表 東京都立大学 川原晋)、研究分担者、H29-32

野田 満 Mitsuru NODA

文科省科研費(若手研究): 「関係人口」の再定義を踏まえた過疎地域の計画論構築-地域づくりの実践を通して、2020-2022(代表)

文科省科研費(基盤研究C): 「通い住民」の地域社会持続への寄与とその定量化、2020-2022(研究分担者)(代表: 齋藤雪彦/千葉大学)

文科省科研費(基盤研究C): 「ネットワーク型事前復興計画」複数漁村の連携と地域文脈・漁業権の仕組みからの考案、2020-2022(研究分担者)(代表: 下田元毅/大阪大学)

公益財団法人マツダ財団研究助成(青少年健全育成関係): フィールド調査及び企画運営を通した子ども食堂の潜在的意義と今日的課題に関する基礎的研究、2020-2022(代表)

トヨタ自動車株式会社トヨタ環境活動助成プログラム国内小規模プロジェクト: 「環境教育 ×アウトドア」のコミュニケーションツールの制作を通した「参加型環境保全観光」、2019-2021(プロジェクト実施担当)

一般財団法人高知放送エヌ・ピー・オー・高齢者支援基金「田舎文化の継承と高齢者の生きがいづくりに向けた「集落史」の編纂と活用」、2020(プロジェクト代表)

東京都立大学傾斜的研究費(部局分) 若手奨励経費: オンラインワーキングを基軸とした過疎地域の「観光むらづくり」の為の方法論研究: 高知県の町神谷北地区 5集落及び兵庫県洲本市宇谷地区における地域づくりへの参与観察を通して、2020(代表)

大平 悠季 Yuki OHIRA

科研費 若手研究: 空き店舗を活用したタウンマネジメント方策の提案、平成 30-令和 2年度(代表)

科研費 基盤研究(B): EBPMに向けた交通インフラ・ストック効果計測手法の確立と事後評価への展開、令和 2-4年度(分担)

平田 徳恵 Norie HIRATA

科研費 若手研究: 観光政策立案実践の為に自治体職員に必要な専門スキル把握と教育プログラムの提案、平成 30-令和 2年度(代表)

04

特定学術研究

Research Summary

3-3. 行動経営科学領域

直井 岳人 Taketo NAOI

科研費 基盤研究(C)：観光者の環境配慮行動を誘発する他者行動：旅の恥をかき捨てない観光者行動の為に、令和元年-3年度(代表)

科研費 基盤研究(C)：人生 100年時代のシニア留学：異文化接触がもたらす認知変容からの分析と提案、平成30年-令和2年度(分担)

日原 勝也 Katsuya HIHARA

2020年度 研究分担者 基盤研究(B)「データフュージョンによる時空間解像度の高い地域観光統計整備手法の開発」を分担者として獲得。継続中

2019年度 科研費 研究代表者(若手)「観光振興主体・空港・航空会社間のリスクシェアリング・メカニズムに関する研究」を獲得。継続中

2016年度 研究代表・基盤研究(C)、「リスク分配契約に関する研究ー航空分野を中心に」、研究代表者 日原勝也

013年度 研究代表・基盤研究(C)、「航空分野におけるリスク分配メカニズム(契約)に関する研究」、研究代表者 日原勝也

東京都立大学・教員交換支援制度・スペイン国・ラスパルマス大学・観光と持続可能性開発に関する研究所(Tides)・Juan Carlos Martin教授との間での教員交換(2020/8-2020/9)(代表)(COVID-19による出入国制限のため中止)

小笠原 悠 Yu OGASAWARA

レベニューマネジメントに基づくオーバーツーリズムの指標開発とその評価(若手研究)(代表者：小笠原悠)

データフュージョンによる時空間解像度の高い地域観光統計整備手法の開発(基盤B)(代表者：清水哲夫)(分担)

阿曾 真紀子 Makiko ASO

離島人材育成基金助成事業(研究助成)：公益財団法人日本離島センター、小学校のプログラミング授業を通じた育成の担い手づくりの可能性の検討ー地域住民が育成にかかわれる教育環境を実現するためにはー、令和2年度、(代表)

5-1. 所属学生

2020年度は学部生 110 名、大学院生 64 名の計 174 名（うち留学生は 24 名）が在籍した。

学部生

1 年 30 名、2 年 32 名、3 年 33 名、4 年 15 名が当コースに在籍した。

本年度進級した 3 年生の分属前の所属については、8 名が市環境学 地理環境コース、1 名が市環境学 市基盤系、7 名が市教養学 人文社会系、1 名が市教養学 経営学系、3 名が市教養学 理工学系、2 名が編入学である。

博士前期課程（修士課程）

修士課程 1 年 17 名うち留学生 1 名、修士課程 2 年 14 名うち留学生 2 名が当学域に在籍した。

博士後期課程（博士課程）

博士課程 1 年 3 名、博士課程 2 年 7 名うち留学生 5 名、博士課程 3 年 14 名うち留学生 10 名が当学域に在籍した。

留学生

表のとおり、留学生は修士課程 6 名、博士課程 18 名の計 24 名である。出身国は表のとおりである。

留学生出身国内約

出身国	修士課程	博士課程	合計
インドネシア	0	5	5
中国	5	1	6
マレーシア	1	4	5
バングラディシュ	0	5	5
タイ	0	1	1
ネパール	0	1	1
ベトナム	0	1	1

5-2. 研究室への配属

4 年以上 74 名の学生の配属先研究室は右表のとおりである。

各研究室所属の学生数

領域	研究室	卒論生	修士課程	博士課程	計
自然	菊地 俊夫	1	5	2	8
自然	沼田 真也	1	4	6	11
自然	大澤剛士	1	5	2	8
計画	清水哲夫	1	8	7	16
計画	川原晋	2	3	3	8
計画	岡村祐	3	5	2	10
行動経営	倉田陽平	1	0	0	1
行動経営	直井岳人	1	4	2	7
行動経営	日原勝也	2	1	0	3
行動経営	Wu Lingling	2	0	0	2

5-3. 学位論文

博士論文

所定の審査を受け、下表に示す 3 名の博士論文が合格した。

氏名	論文タイトル	主査
Prasetyo Nugroho	Mechanism of tourism development support in a community-based tourism : the case of Gunung Ciremai National Park, Indonesia	沼田 真也
河田 浩昭	観光における満足度とロイヤルティの規定要員に関する研究 —Incomplete Planned Experiences の観点から—	直井 岳人
Oscar Tiku	Analysis on tourism contribution on regional economy and income distribution using Input-Output Table and Regional Social Accounting Matrix - Case of West Papua Province, Indonesia	清水 哲夫
劉 羽佳	窯業の現代化と観光活用による伝統的集落の歴史的景観の保全に関する研究 —中国陝西省堯頭村を事例として—	岡村 祐

5-3. 学位論文

修士論文

所定の審査を受け、下表に示す 17名の修士論文が合格した。

氏名	論文タイトル	主査
中山 玲	アジアの茶生産地域におけるティーツーリズムの展開とその地域性格 ーマレーシアキャメロンハイランドと京都府和束町の比較研究ー	菊地 俊夫
陳 楊	農産物の地域ブランド化にともなうフードツーリズムの展開 ー「横浜農場」と「富の川越いも」の事例ー	菊地 俊夫
青木 卓也	旅行者主導型コンテンツとしての「猫島」の観光動向や課題と島民・行政の対応実態 ー「猫島現象」を活かした適切な離島振興に向けてー	川原 晋
石井 萌美	親族外承継による銭湯事業に見る銭湯資産保全とレクリエーション利用促進の関係 ー親族外承継の困難要因を踏まえてー	川原 晋
黄 淑華	観光プロモーションビデオと訪問経験による観光地イメージと訪問意向への影響 ー香港の都市部と島嶼部の比較	直井 岳人
大川 恭平	観光地の混雑マネジメントを目指した周遊行動の変容要因と効果に関する研究 ー鎌倉・金沢街道エリアを事例としてー	清水 哲夫
大畑 聖一郎	都市緑地の昆虫相に景観構造が与える影響	大澤 剛士
小野塚 瑞季	世界自然遺産 小笠原における遊歩道への外来植物の侵入と観光	大澤 剛士
小林 憲太	トマツノキクイムシの繁殖様式	沼田 真也
小林 祥	Human impacts on diel activity patterns of wild mammals in the tourist area of Endau Rompin National Park, Peninsular Malaysia (半島マレーシアのエンダウ・ロンピン国立公園の観光利用地域における野生哺乳類の日周活動パターンへの人為影響)	沼田 真也
小向 光	益子焼とその産地を対象とする民藝ブーム以降の観光の様相と文化仲介者の機能	岡村 祐
菅井 颯	レストラン列車運行にともなう鉄道の観光化と地域連携構造の変化 ー岐阜県・明知鉄道の事例ー	菊地 俊夫
武井 進也	トマツノキクイムシの穿入孔と母坑の分布様式	沼田 真也
田村 優衣	アカスジカスミカメのフェノロジー変化によるイネとの相互作用の変化	大澤 剛士
天目 岳志	訪問順序を考慮した訪日外国人観光客の周遊パターンの類型化とその変遷に関する研究 ー地方空港への国際線就航による影響に着目してー	清水 哲夫
横倉 恵美	交通サービス水準と周辺地域の資源による郊外散策路への公共交通利用促進の可能性	清水 哲夫
関塚 哲史	南大沢駅周辺におけるエリアマネジメントの継続要因と今後の課題	岡村 祐

5-3. 学位論文

卒業論文

所定の審査を受け、下表に示す 15 名が卒業論文を提出した

氏名	論文タイトル	主査
吉田 伊武貴	旅先における失敗リスクを把握可能にするための機械学習を用いた失敗談ツイート抽出方法の構築	倉田 陽平
黒須 康太	ボランティアツーリズムの観光要素が参加動機と参加意向に及ぼす影響—観光要素の程度に差があるシナリオを用いて—	直井 岳人
久保田 祐輝	Attention機構を用いた Graph Convolutional Networksによる短期的将来滞在人口推定	清水 哲夫
浮田 悠	八王子市におけるゲンジボタルの生息適地の推定	大澤 剛士
渡辺 安菜	御岳山御師集落における聖地管理の実態—主体間の連携と意識共有に着目して—	岡村 祐
石野 奈々香	美術館における地域ゆかりの活動とその観光活用の可能性	岡村 祐
海老沢 結	歴史文化資源の保全・継承と観光活用における偉人子孫と行政の活動や役割の相違～日野市における新選組の子孫が運営する資料館に着目して～	川原 晋
篠 朱莉	山形県上山市におけるヘルスツーリズムのプログラムの変遷と継続要因	岡村 祐
芹澤 風太	競輪資産を生かした競技以外の取組みに見る競輪振興や地域振興～競輪中央団体および公設競輪運営団体への調査から～	川原 晋
長田 真大	京王線における混雑の影響とその緩和	日原 勝也
宮坂 奈緒	地域課題解決のためのシェアリングエコノミーの導入の特徴—日本のシェアリングエコノミーの実態の調査と市場構成要素による分析—	日原 勝也
陸川 早紀	新型コロナウイルス感染症パンデミックが小学生の外遊びに与える影響—神奈川県川崎市の小学生を事例として—	沼田 真也
工藤 実倫	自然の恩恵と脅威の観点から捉えた浅間山北麓ジオパークのジオストーリーの地域的特徴—観光と防災教育の両立を目指して—	菊地 俊夫
吉岡 鴻志	都市間高速バスに対する支払意志額をもとにした最適価格の算出	小笠原 悠
目代 風	オンラインツアーの参加意向の規定要因と制約の役割	Wu LingLing

6-1. 自然環境マネジメント領域

菊池 俊夫 Toshio KIKUCHI

- ◆ 地理空間学会会長
- ◆ 公益社団法人日本地理学会代議員
- ◆ 東京地学協会行事委員会委員
- ◆ 日本ジオパーク委員会委員
- ◆ 日本オーガニック＆ナチュラルフーズ協会 (JONA) 認証判定委員・委員長
- ◆ 国土交通省審議会会長
- ◆ 農林水産省生産資材専門委員会委員
- ◆ 東京都環境局 ECO-TOPプログラム認定検討会会長
- ◆ 東京都港湾局海上公園指定管理者評価・選定委員会委員
- ◆ 八王子市斜面緑地保全委員会委員長
- ◆ あきる野市総合計画策定委員会委員長
- ◆ 調布市まちづくり審議会委員
- ◆ 調布市緑の基本計画策定委員会委員長
- ◆ 調布市国史跡下布田遺跡整備基本計画策定委員会委員
- ◆ 名古屋インバウンド観光協会理事

沼田 真也 Shinya NUMATA

- ◆ 日本生態学会キャリア支援専門委員会 委員 (2020-)
- ◆ 文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター 専門調査員 2014年4月～
- ◆ 八王子市環境審議会 委員・会長 2020年4月～
- ◆ 多摩市みどりと環境審議会 委員・会長 2020年12月～
- ◆ その他、審査、アドバイス等

大澤 剛士 Makiko ASO

- ◆ 日本生態学会 和文誌 編集委員
- ◆ 日本生態学会第二和文誌 編集委員
- ◆ 日本生態学会 英文誌 編集幹事 (Associate Editor in Chief)

高木 悦郎 Etsuro TAKAGI

- ◆ Journal of Forest Research、Editor

矢ヶ崎 太洋 Taiyo YAGASAKI

- ◆ 地理空間学会 集会委員会
- ◆ 日本地理学会 資格専門委員会
- ◆ 農林水産省「地域の創意販売促進事業」審査委員

6-2. 地域計画・マネジメント領域

清水 哲夫 Shimizu Tetsuo

学会活動

- ◆ 土木学会国際センター国際交流グループ
ミャンマーグループリーダー
- ◆ 交通工学研究会第一学術小委員会委員
- ◆ 交通工学研究会研究委員会技術顧問
- ◆ 交通工学研究会査読委員会委員
- ◆ 米国旅行・観光研究学会アジア太平洋支部理事
- ◆ 日本観光研究学会理事

学外活動

- ◆ 公益社団法人日本観光振興協会総合調査研究所所長兼
日本観光振興アカデミー学長

政府・自治体・民間企業等委員会活動

- ◆ 観光庁・観光統計の整備に関する検討懇談会委員
- ◆ 観光庁・観光圏整備に関する検討会委員
- ◆ 観光庁・観光地等における効果的な受入環境整備に関する検討委員会委員
- ◆ 観光庁・誘客多角化等のための魅力的な滞在コンテンツ造成に向けた実証調査企画競争委員会座長
- ◆ 観光庁・誘客多角化等のための魅力的な滞在コンテンツ造成有識者委員会座長
- ◆ 観光庁・インバウンド受入実証事業に係る審査委員会委員
- ◆ 観光庁・地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進事業企画競争委員会委員
- ◆ 観光庁・観光地における新規市場の開拓・多角化に向けた検討会座長
- ◆ 国土交通省道路局・地域道路経済戦略調査研究会委員
- ◆ 国土交通省総合政策局・インフラツーリズム有識者懇談会座長
- ◆ 国土交通省総合政策局・ビッグデータによる旅客流動把握の高度化に関するワーキング委員
- ◆ 国土交通省関東地方整備局・東京都市圏総合都市交通体系調査技術検討会対流拠点ワーキング委員
- ◆ 東京都・利用者の視点に立った東京の交通戦略推進会議水辺空間活用ワーキング主査
- ◆ 東京都・三学会合同によるTDM推進に関する検討会委員
- ◆ 東京都・東京高速道路(KK線)の既存施設のあり方検討会委員
- ◆ 東京都・多摩都市モノレール町田方面延伸ルート検討委員会委員
- ◆ 東京都・南大沢スマートシティ協議会座長
- ◆ 神奈川県・観光魅力創造協議会事業等に係る検証分科会座長
- ◆ 広島県・宮島口における円滑な駐車及び交通誘導検討会委員
- ◆ 町田市・交通安全行動計画策定および推進委員会委員長
- ◆ 大田区・交通政策基本計画推進協議会副会長
- ◆ (株)首都高速道路・首都高の料金に関する懇談会委員
- ◆ (株)首都高速道路・首都高交通量推計手法検討委員会幹事長兼委員
- ◆ (公社)日本道路協会・交通工学委員会交通安全小委員会道路標識WG委員
- ◆ (一財)国土計画協会・地域連携推進団体協議会アドバイザー
- ◆ 全国観光圏推進協議会・アドバイザー
- ◆ (一社)ハケ岳ツーリズムマネジメント・ブランド戦略会議およびインバウンド・二次交通検討会議アドバイザー
- ◆ (一財)江戸東京歴史文化ルネッサンス・調査・研究委員会座長
- ◆ (一財)運輸総合研究所・観光と地域交通に関する研究会座長代理
- ◆ (一財)アジア太平洋観光交流センター・サステナブルツーリズム推進センター委員
- ◆ (一財)運輸総合研究所・持続可能な観光地域経営の推進に関する調査検討委員会座長代理
- ◆ 観光立国推進協議会・地域交通専門部会委員長
- ◆ ツーリズム EXPO ジャパン 2021 実行委員会委員兼国際会議部会長

招待講演・基調講演

- ◆ 「COVID-19 災禍を踏まえた社会とインフラの転換に関する声明- 新しい技術と価値観による垂直的展開-」の概観と具体的な取り組みの方向性、第 25 回「沖縄の土木技術を世界に発信する会」シンポジウム、那覇、2020 年 11 月

- ◆ 観光分野の SDGs 推進のためのデータ、東京都オープンデータ・ラウンドテーブル第 1 回、東京 (オンライン)、2021 年 2 月

- ◆ 地方創生における観光圏と観光地域づくり法人、豊の国千年ロマン観光圏シンポジウム 2021、別府 (オンライン)、2021 年 2 月

- ◆ いわき市における観光マーケティングとデータの重要性、観光まちづくりセミナー「観光マーケティングとデータの重要性を考える」、いわき、2021 年 3 月

パネルディスカッション等

- ◆ 清水哲夫、本保芳明、矢ヶ崎紀子、山野智久、田中篤：これからの観光産業における人材を考える、観光経営トップセミナー WEB シンポジウム、東京、2020 年 10 月

- ◆ 清水哲夫、岩淵令治、海野聡、中島直人、福井恒明：江戸城全体構想整備構想の策定並びに江戸東京の歴史文化まちづくりを目指してー設立 3 周年記念パネルディスカッション、東京、2020 年 10 月

- ◆ 有住康則、清水哲夫、神谷大介、他：新しい日常に対応するインフラのあり方- With コロナ、After コロナ-、第 25 回「沖縄の土木技術を世界に発信する会」シンポジウムパネルディスカッション、那覇、2020 年 11 月

- ◆ 清水哲夫、大井尚司、小林昭治、古竹孝一、松本順、吉田晶子：観光と地域交通～ポストコロナ時代を見据えて、第 67 回運輸政策セミナーパネルディスカッション、東京、2020 年 11 月

- ◆ 清水哲夫、吉田正嗣、小林昭治、城戸陽二：WITH コロナ期における観光地域づくり法人の役割、With コロナ期の「ハケ岳モデル」～新しい旅・生活様式への挑戦～鼎談・シンポジウム、オンライン、2021 年 2 月

- ◆ 佐藤隆、清水哲夫、大井尚司、蛇谷憲治：観光 × 地域交通～これからの地方交通のカたち、豊の国千年ロマン観光圏シンポジウム 2021 パネルディスカッション、オンライン、2021 年 2 月

- ◆ 田子英彦、清水哲夫、徳政由美子：観光マーケティングにおけるデータの重要性を考える、観光まちづくりセミナー「観光マーケティングとデータの重要性を考える」パネルディスカッション、いわき、2021 年 3 月

講座

- ◆ 国土交通省国土技術政策総合研究所・東京都立大学法人「地域 ITS マネジメント研修」、基調講演・講義、オンライン、2021 年 2 月
- ◆ 東京都立大学「中級観光デジタルマーケティング講座」、講義、オンライン、2021 年 3 月

川原 晋 Susumu KAWAHARA

学外活動

- ◆ 日本建築学会 都市計画本委員会「持続可能な観光地形成小委員会」幹事
- ◆ 公益財団法人日本都市センター「都市自治体におけるツーリズム行政に関する研究会」座長
- ◆ 日本観光研究学会「新型コロナ・特別プロジェクト 民間方策グループ」委員

コンサルティング業務等

- ◆ 「長門湯本温泉観光まちづくり事業 景観ガイドライン運用・設計支援業務 (分担)」、山口県長門市、2020.4 - 2021.3
- ◆ 「長門湯本温泉観光まちづくり事業 観光地経営戦略検討に関するアドバイザー業務 (分担)」、長門市、2020.4 - 2021.3

行政委員会委員等

- ◆ 横浜市地域まちづくり推進委員会 まち普請事業部会委員
- ◆ 長門湯本温泉観光まちづくりプロジェクト デザイン会議委員
- ◆ 公益財団法人 日本都市センター ツーリズム行政に関する調査研究会 座長

06

社会貢献 Social contributions

- ◆ 国土交通省 都市局公園緑地・景観課「今後の景観まちづくりのあり方検討ワーキンググループ」 委員
- ◆ 青梅観光戦略創造プロジェクト委員会 座長
- ◆ 藤沢市都市景観アドバイザー（藤沢市計画建築部景観課）
- ◆ 八王子市景観審議会委員（八王子市まちなみ景観課）
- ◆ 同・協議審査専門部会委員
- ◆ 同・制度設計部会委員
- ◆ 同・景観アドバイザー
- ◆ 八王子市高尾山口駅周辺地区まちづくり連絡会委員（八王子市都市計画課）
- ◆ 川崎市民間活用推進委員会委員 委員
- ◆ 町田市観光まちづくり推進委員会 委員
- ◆ あきる野市まち・ひと・しごと総合戦略推進会議 副座長

市民まちづくり

- ◆ 一般社団法人 エリアマネジメント南山 理事（東京都稲城市内）
- ◆ 一般社団法人 大田クリエイティブタウンセンター理事（東京都大田区内）

岡村 祐 Yu OKAMURA

講師・講演

- ◆（講演）「おおたオープンファクトリーから考える工房見学の課題と展望」、GO FOR KOGEI オンライン勉強会、2021年 1月 21日
（講演）「世界のオープンシティの取り組み」、第 10回 オープンナガヤ大阪 2020ナガラライブ、オープンナガヤ大阪実行委員会主催、2020年 11月 14日
- ◆（コーディネーター）「おおたオープンファクトリーシンポジウム」、おおたオープンファクトリー実行委員会主催、2021年 2月 27日
（イベント）「第 10回おおたオープンファクトリー」、おおたオープンファクトリー実行委員会主催、2020年 11月 28日

自治体・民間企業等委員会活動

- ◆ 東京都都市整備局 令和 3 年度南大沢スマートシティ支援業務委託技術審査委員会特別委員
- ◆ 東京都戦略政策情報推進本部 令和 3 年度西新宿スマートシティプロジェクト支援業務委託技術審査委員会委員
- ◆ 東京都戦略政策情報推進本部 令和 3 年度スマートポール設置等による西新宿エリアにおける次世代都市サービスの政策誘導に関する支援業務委託技術審査委員会委員
- ◆ 東京都戦略政策情報推進本部 令和 3 年度西新宿エリアにおける都民向け 5G等普及啓発イベントの企画・運営業務委託に係る企画提案審査会委員
- ◆ 東京都都市整備局 令和 2 年度南大沢スマートシティ支援業務委託技術審査委員会特別委員
- ◆ 武蔵村山市まちづくり基本方針策定委員会委員
- ◆ 東京都都市整備局 南大沢スマートシティ協議会委員、商業賑わい部会部会長
- ◆ 羽田空港ベイエリア地区・インバウンドビジネス協議会委員
- ◆ 東京都調布市都市計画審議会委員
- ◆ 山梨県韮崎市史跡新府城跡保存整備委員会委員
- ◆ 東京都福祉保健局 東京都福祉のまちづくり推進協議会委員

学会活動

- ◆ 日本建築学会（都市計画本委員会委員、地域観光プランニング小委員会委員主査）
- ◆ 日本観光研究学会（理事、学術委員会委員）

その他

- ◆ NPO法人アーバンデザインセンター・茅ヶ崎 副理事長
- ◆ 一般社団法人おおたクリエイティブタウンセンター 代表副理事

野田 満 Mitsuru NODA

学会活動

- ◆ 日本建築学会農村計画本委員会 幹事
- ◆ 日本建築学会農村計画委員会 農村地域づくり小委員会 委員
- ◆ 日本建築学会大会実行委員会 委員
- ◆ 日本建築学会関東支部農村建築専門研究委員会 主査
- ◆ 日本建築学会関東支部研究運営委員会 委員
- ◆ 農村計画学会編集委員会 委員

社会活動

- ◆ 兵庫県地域再生アドバイザー
- ◆ 兵庫県洲本市地域おこしマイスター（兵庫県版地域おこし協力隊）

社会活動（講演等）

- ◆ 野田満：「人と山と」里山保全 ×アウトドアの地域づくりが教えてくれた 12のこと、タテマエウェビナーVol.01、ONLINE、2020.05.31
- ◆ 野田満：「人と人」と関係人口と地域づくり、そしてコロナ禍を考える、タテマエウェビナーVol.03、ONLINE、2020.06.14
- ◆ 野田満：With COVID-19と関係人口 -高知県の町神谷北地区 5集落における取り組み-、高知県自治研究センター、2020.09.26

大平 悠季 Yuki OHIRA

- ◆ 鳥取県景観審議会 委員
- ◆ 鳥取市指定管理者選考委員会 委員
- ◆ 鳥取市鳥取駅周辺再生基本構想（第 2 期）策定委員会 副委員長

平田 徳恵 Norie HIRATA

- ◆ 日本建築学会 住まい・まちづくり支援建築会議 運営委員会委員
- ◆ 員・情報事業部会委員（幹事）
- ◆ 八王子市まちづくりアドバイザー
- ◆ 東京都観光経営人材育成講座講師
- ◆ 東京都立大学オープンユニバーシティ講師
- ◆ 武蔵野大学 基礎セルフデベロップメント人間・環境分野 非常勤講師

6-3. 行動経営科学領域

直井 岳人 Taketo NAOI

- ◆ 日本観光研究学会学術委員、日本観光振興協会寄付講座実施担当

日原 勝也 Katsuya HIHARA

東京大学公共政策大学院（国際観光交通政策研究ユニット（ITTPU）の客員研究員として、交通・社会インフラを中心とする公共政策分野の大学院レベルの教育研究を支援・連携中

一般社団法人 航空イノベーション推進協議会 AIDA（代表理事：鈴木真二東大名誉教授）において、会員として、地域航空検討委員会、人材育成検討委員会の委員をと止め、我が国の航空輸送システムに関するイノベーション研究教員を支援中

多摩信用金庫を核として、シェアリングエコノミーについて勉強会を立ち上げ、関東経産局、八王子市、日野市、国分寺市、UR、富士通他の関係者と、観光による地域振興の研究を展開中。

Wu Lingling Wu Lingling



7-1. 自然環境マネジメント領域

氏名	論文タイトル
高木 悦郎	京都立大学都市環境学部リーディングサイエンティスト、2021 年 1 月.
矢ヶ崎 太洋	地理空間学会 2019 年度学会賞 奨励賞、2020 年 6 月

7-2. 地域計画・マネジメント領域

氏名	論文タイトル
川原 晋	2020 年度グッドデザイン賞受賞 受賞対象「長門湯本温泉観光まちづくりプロジェクト」 (川原は専門家メンバーとして参画)、2020.10
川原 晋	2020 年度 ふるさと名品オブ・ザ・イヤー「地方創生大賞（コト部門）」受賞、 受賞品名：「オソト天国」長門湯本温泉街の丸ごとリノベーション & マネジメント (川原は専門家メンバーとして参画)、2021.03

7-3. 行動・経営科学領域領域

氏名	論文タイトル
阿曾 真紀子	日本マーケティング学会ベスト・オーラルペーパー賞受賞、2020 年 10 月





TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

東京都立大学



令和2年度（2020年度）東京都立大学 都市環境学部 自然・文化ツーリズムコース/都市環境科学研究科 観光科学域 学位記授与式
2021/03/21



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
東京都立大学



観光を科学する
TOURISM
SCIENCE

東京都立大学 都市環境学部 観光科学科
東京都立大学大学院 都市環境科学研究科 観光科学域

2020 ANNUAL REPORT

<http://www.comp.tmu.ac.jp/tourism/>

編集・発行：東京都立大学 都市環境学部 観光学科

発行日：2021年7月1日

内容に関してのお問い合わせ

〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1

東京都立大学 都市環境学部 観光学科

野田 満（アニュアルレポート作成担当）

電話：042-677-1111（内）4241

Eメール：m_noda@tmu.ac.jp

